防災指針

1　防災指針の概要、目的、位置づけ等

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、令和２年９月の都市再生特別措置法の改定により、当該指針に基づく具体的な取組と併せて立地適正化計画に定めることとなりました。

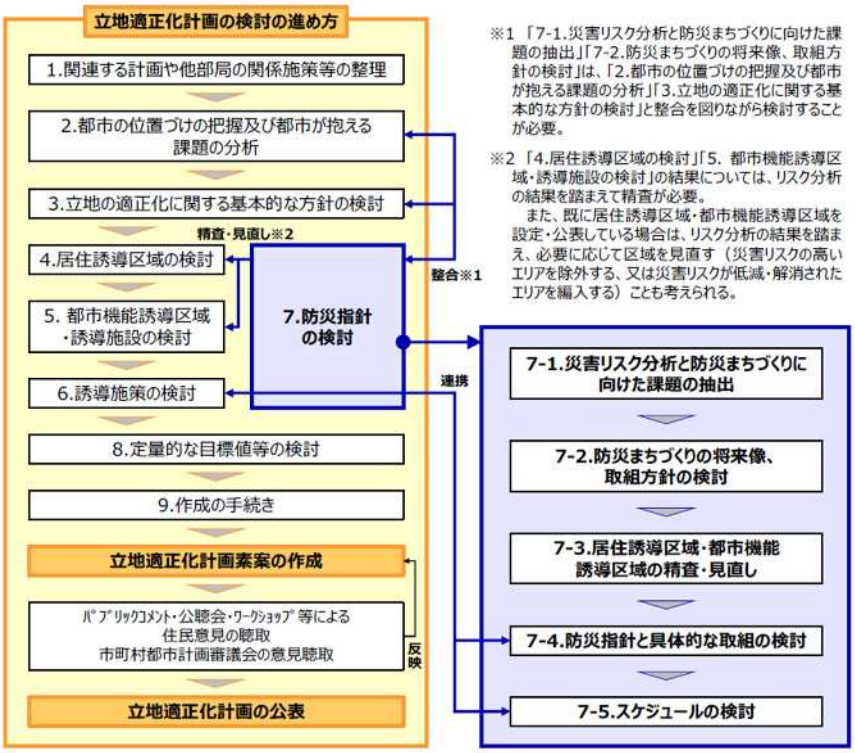
様々な災害のうち、洪水、雨水出水等による浸水エリアは広範囲に及び、既に市街地が形成されていることも多いことから、この範囲を居住誘導区域から全て除くことは現実的に困難です。また、地震については、影響範囲や程度を地域ごとに分析し、居住誘導区域から除外することに限界もあります。

このため、居住誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことが求められており、立地適正化計画においては、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市防災に関する機能確保のため、防災指針を定めるとともに、この方針に基づく具体的な取り組みを位置づけることとされています。（都市計画運用指針）

合わせて、現に居住誘導区域外で生活している居住者の安全を確保するための取組についても検討することとされています。（立地適正化計画の手引き【基本編】）

国土交通省の「立地適正化計画の手引き【基本編】」において、以下のような防災指針検討のフローが示されており、このフローを基本に検討を行います。

図　防災指針検討のフロー



資料：立地適正化計画の手引き【基本編】（令和７年４月改訂）（国土交通省）

2 現状の居住誘導区域等における災害リスク分析

(1)災害ハザード情報の整理

1)本市における災害ハザード情報の整理

本市で想定されている災害ハザード情報を以下に整理します。

表　本市における災害ハザード情報

種別	規模	災害ハザード情報	備考
洪水・内水	計画規模	洪水・内水浸水深	1 年に発生する確率が 1/100 規模の降雨(24 時間総雨量 411mm)で洪水と内水氾濫が同時に発生した場合の浸水深
	想定最大規模	洪水・内水浸水深	想定し得る最大規模の降雨(24 時間総雨量 760mm)で洪水と内水氾濫が同時に発生した場合の浸水深
		洪水浸水継続時間	想定し得る最大規模の降雨(境川流域:24 時間総雨量 760mm、逢妻川流域:24 時間総雨量 765mm※)により 0.5m 以上の浸水が想定される区域及びその継続時間
		家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)	想定し得る最大規模の降雨(境川流域:24 時間総雨量 760mm、逢妻川流域:24 時間総雨量 765mm※)により家屋倒壊等をもたらすような氾濫流及び河岸侵食の発生が想定される区域
高潮	想定最大規模	高潮浸水深	想定し得る最大規模の高潮(室戸台風規模(中心気圧 910ha)、堤防等決壊あり)による氾濫が発生した場合の浸水深
		高潮浸水継続時間	想定し得る最大規模の高潮(室戸台風規模(中心気圧 910ha)、堤防等決壊あり)による氾濫が発生した場合、0.5m 以上の浸水が想定される区域及びその継続時間
土砂災害	−	土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険区域	−
地震	南海トラフ巨大地震	震度分布	国が公表している震度分布(250m メッシュ)に本市の詳細な地形区分(50m メッシュ)を重ね合わせ、地震の揺れを算定した結果※※
		液状化の可能性	国が公表している震度分布(250m メッシュ)に本市の詳細な地形区分(50m メッシュ)を重ね合わせ、液状化の可能性を評価した結果※※
ため池	−	浸水深	地震によりため池の堤防が決壊した場合の浸水深
その他	−	大規模盛土造成地	−

※逢妻川流域の河川からの浸水は豊明市では想定されていない
※※地震については、最新の予測が令和 7 年 3 月 31 日に公表されているものの、GIS データは未公表のため、前回予測(平成 26 年公表)のデータを使用

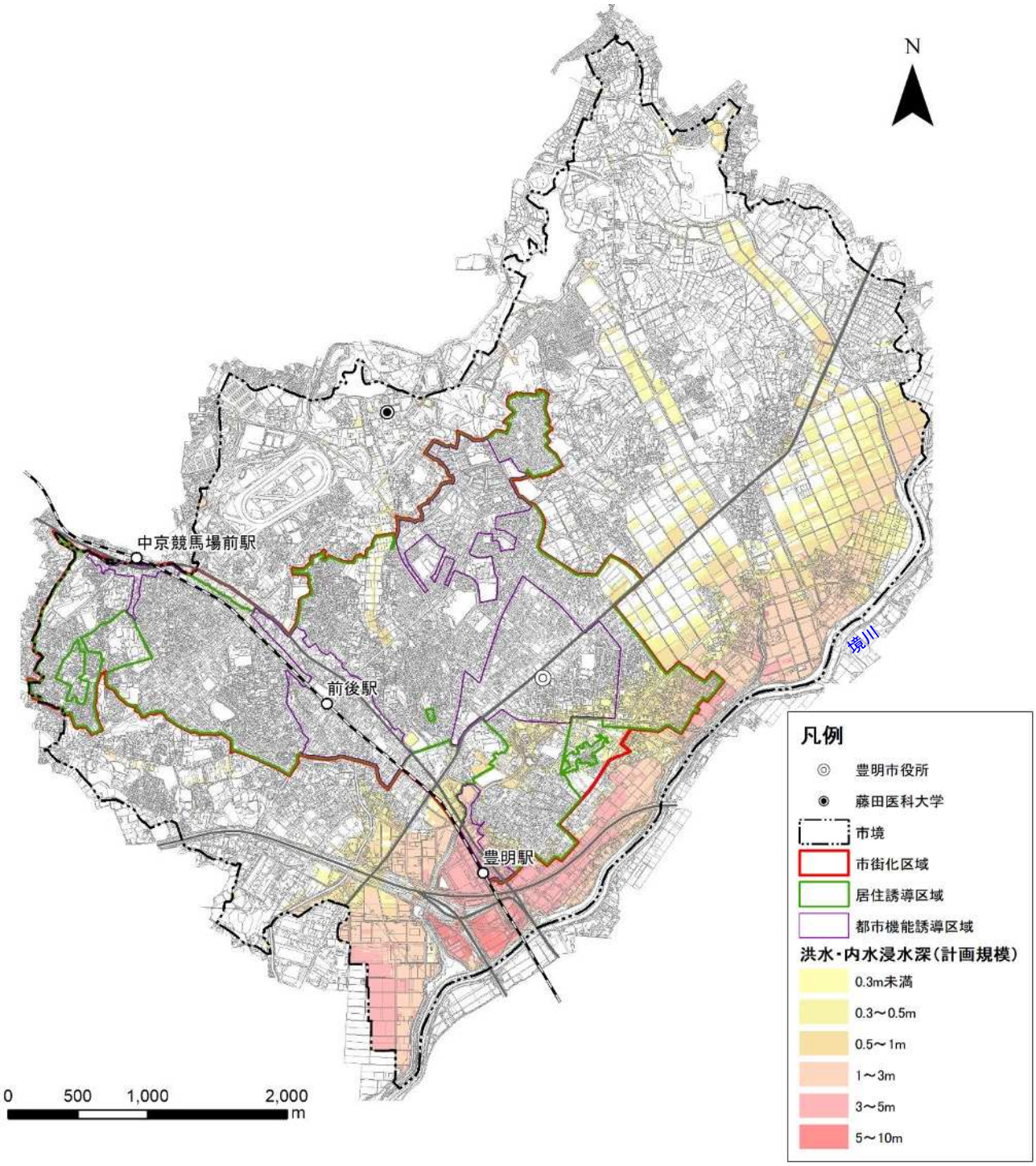
2）各種災害ハザードの整理

①洪水・内水

●洪水・内水浸水深（計画規模）

１年に発生する確率が 1/100 規模の降雨で洪水と内水氾濫が同時に発生した場合（計画規模）、東部から南部にかけての境川沿いや中小河川沿いが浸水すると想定されています。また、３ｍ以上の区域が境川沿いで多くみられます。

図　洪水・内水浸水深（計画規模）

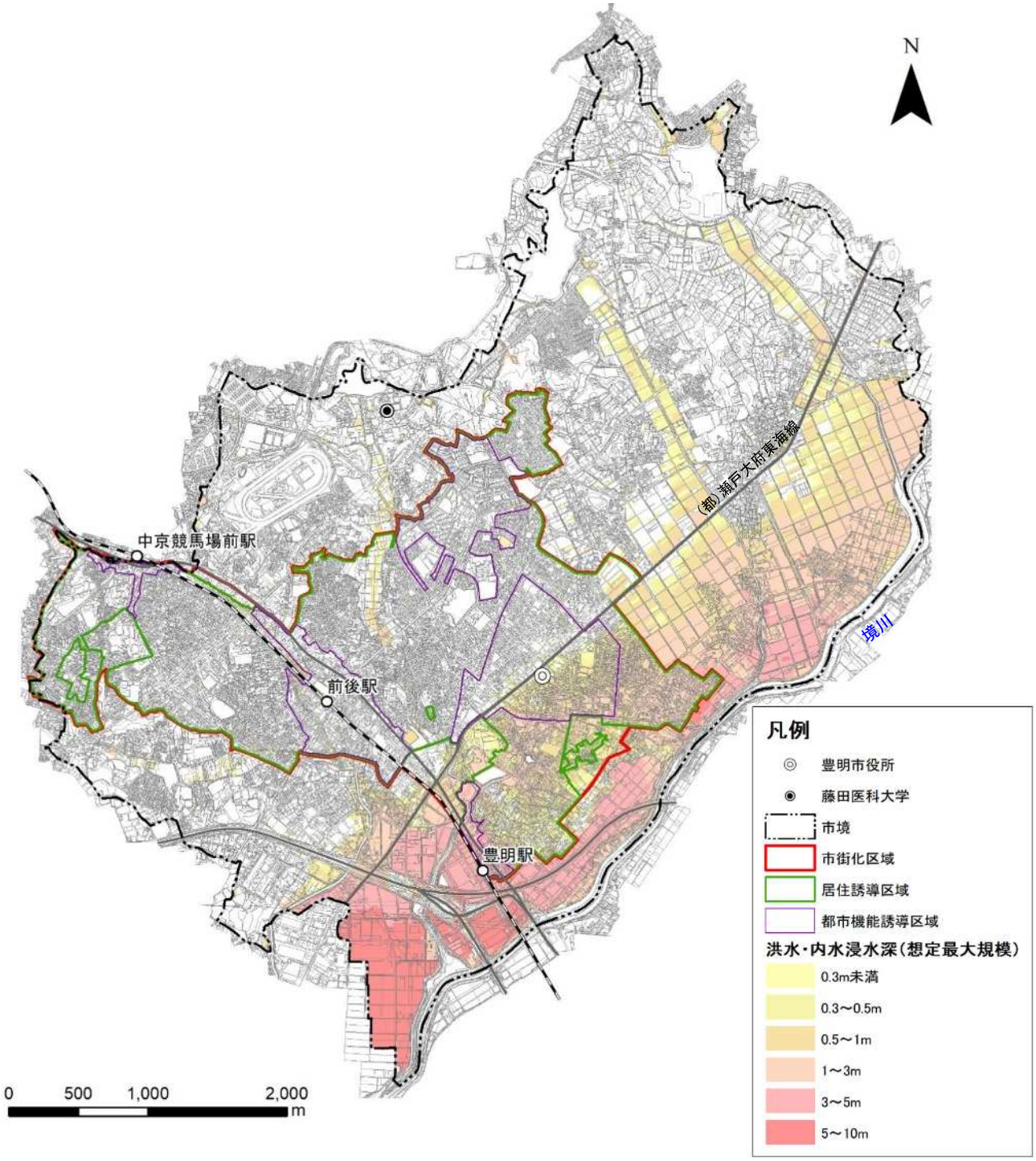


資料：豊明市水害・土砂災害ハザードマップ（令和４年３月改訂）の GIS データより作成

●洪水・内水浸水深（想定最大規模）

想定し得る最大規模の降雨で洪水と内水氾濫が同時に発生した場合（想定最大規模）、境川から（都）瀬戸大府東海線にかけての区域や中小河川沿いが浸水すると想定されています。また、３ｍ以上の区域が境川から（都）瀬戸大府東海線にかけての広範囲にみられます。

図　洪水・内水浸水深（想定最大規模）

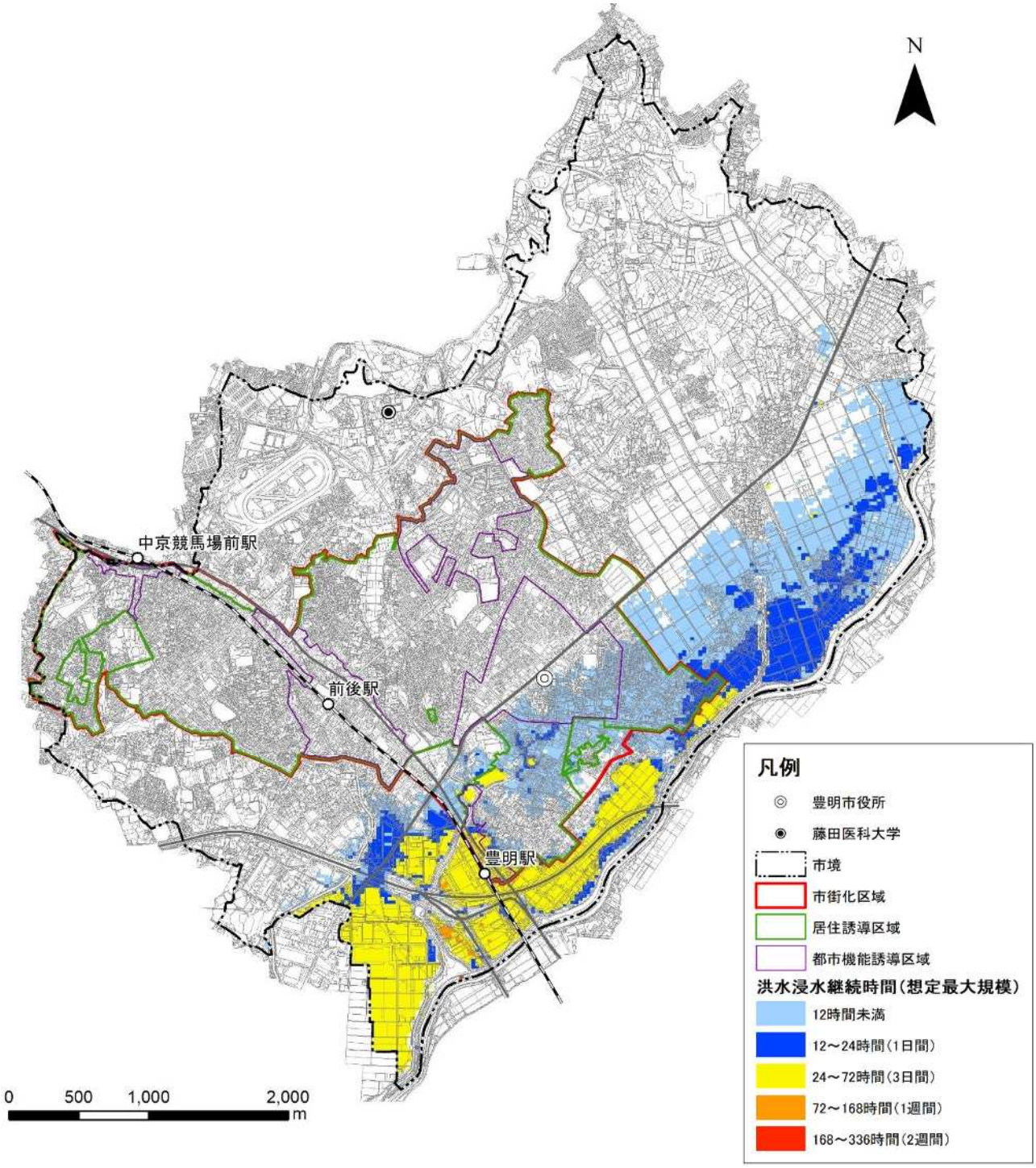


資料：豊明市水害・土砂災害ハザードマップ（令和４年３月改訂）の GIS データより作成

●洪水浸水継続時間（想定最大規模）

洪水浸水継続時間（想定最大規模）をみると、３日以上の浸水が豊明駅の南側の一部にみられますが、ほとんどの区域が３日未満となっています。

図　洪水浸水継続時間（境川・逢妻川流域-想定最大規模）

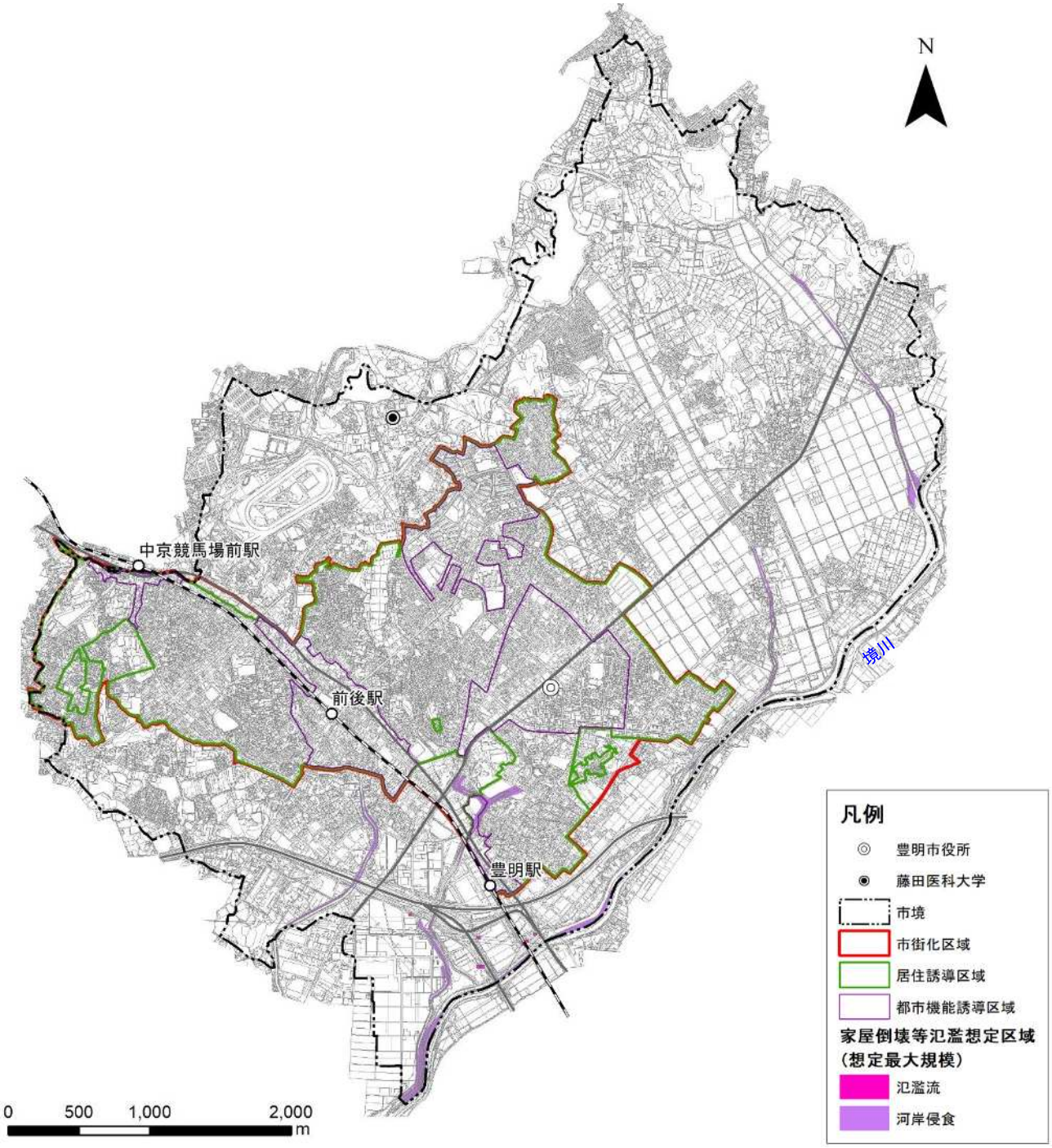


資料：愛知県　境川・逢妻川流域洪水浸水想定区域図（令和６年 11 月 12 日公表）の GIS データより作成

●家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模）

家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）は、豊明駅の南側にみられます。また、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、境川沿いや中小河川沿いにみられます。

図　家屋倒壊等氾濫想定区域（境川・逢妻川流域−想定最大規模）



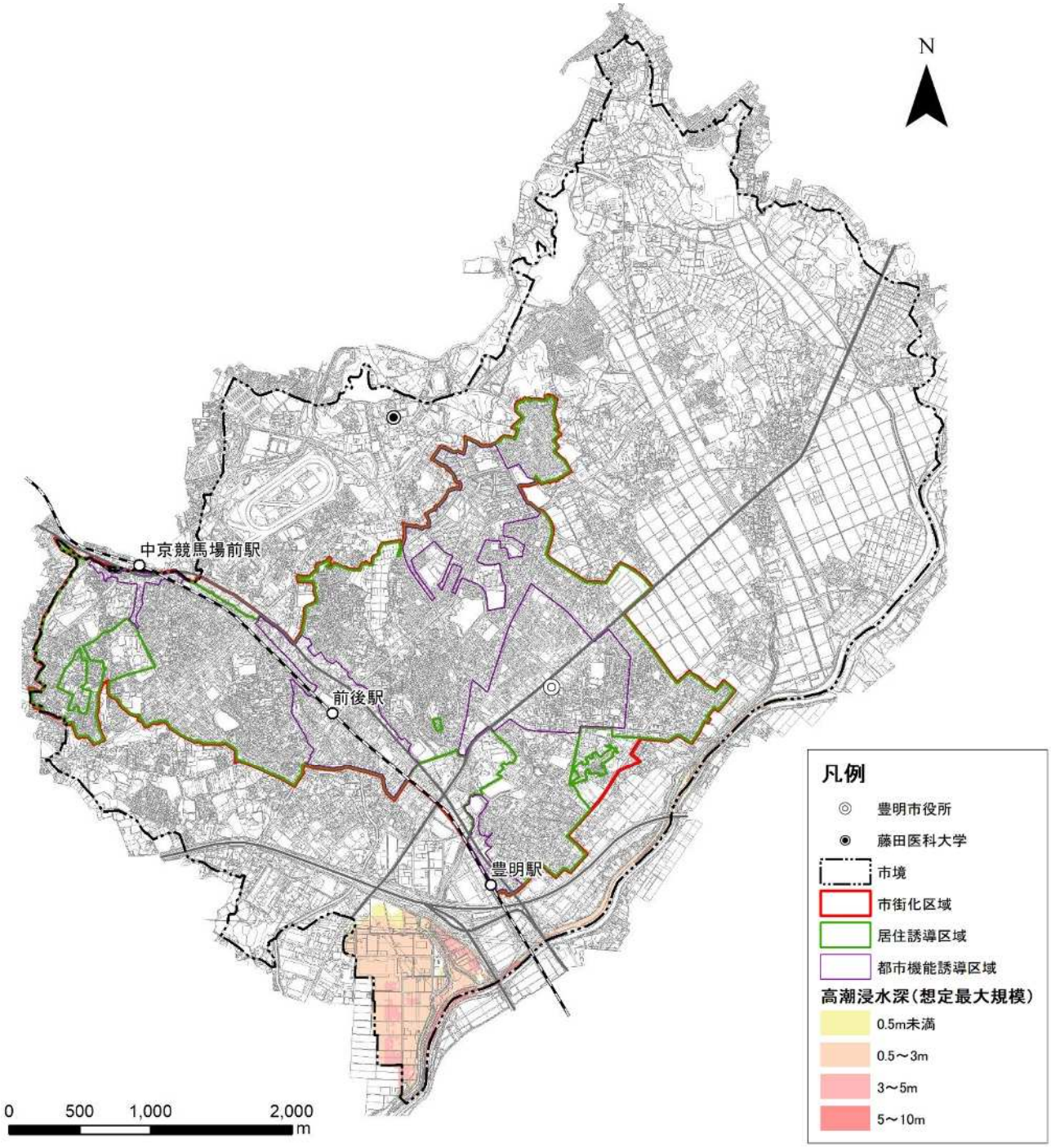
資料：愛知県　境川・逢妻川流域洪水浸水想定区域図（令和 6 年 11 月 12 日公表）の GIS データより作成

②高潮

●高潮浸水深（想定最大規模）

高潮浸水想定区域（想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり））は、豊明駅の南側の工場や商業施設が立地する地区に広がっており、３ｍ以上の区域もみられます。

図　高潮浸水深（想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり））

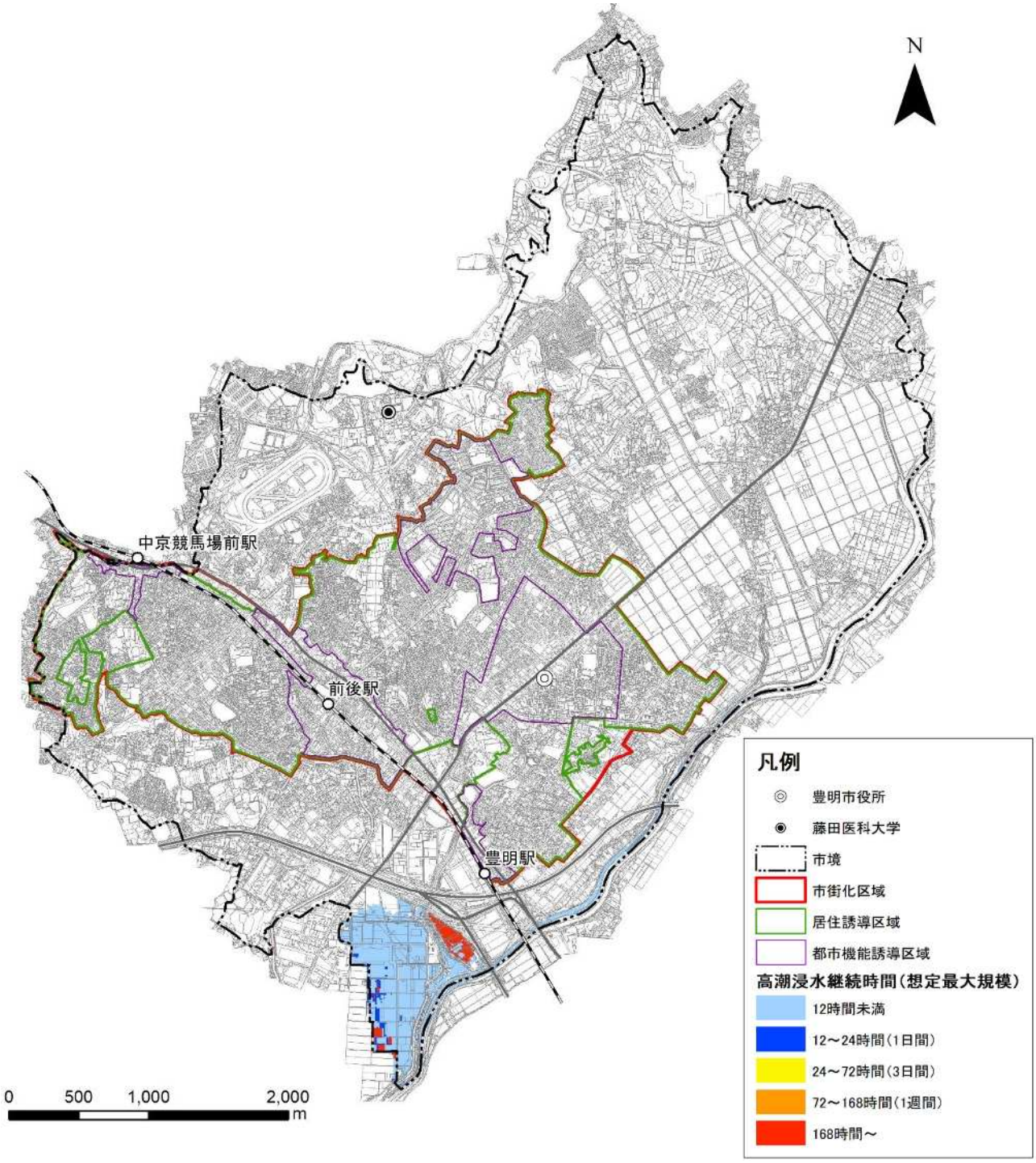


資料：愛知県　高潮浸水想定区域図（令和３年６月 11 日公表）の GIS データより作成

●高潮浸水継続時間（想定最大規模）

高潮浸水継続時間（想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり））をみると、３日以上の浸水が豊明駅の南側の一部にみられますが、ほとんどが３日未満となっています。

図　高潮浸水継続時間（想定最大規模（室戸台風規模・堤防等決壊あり））



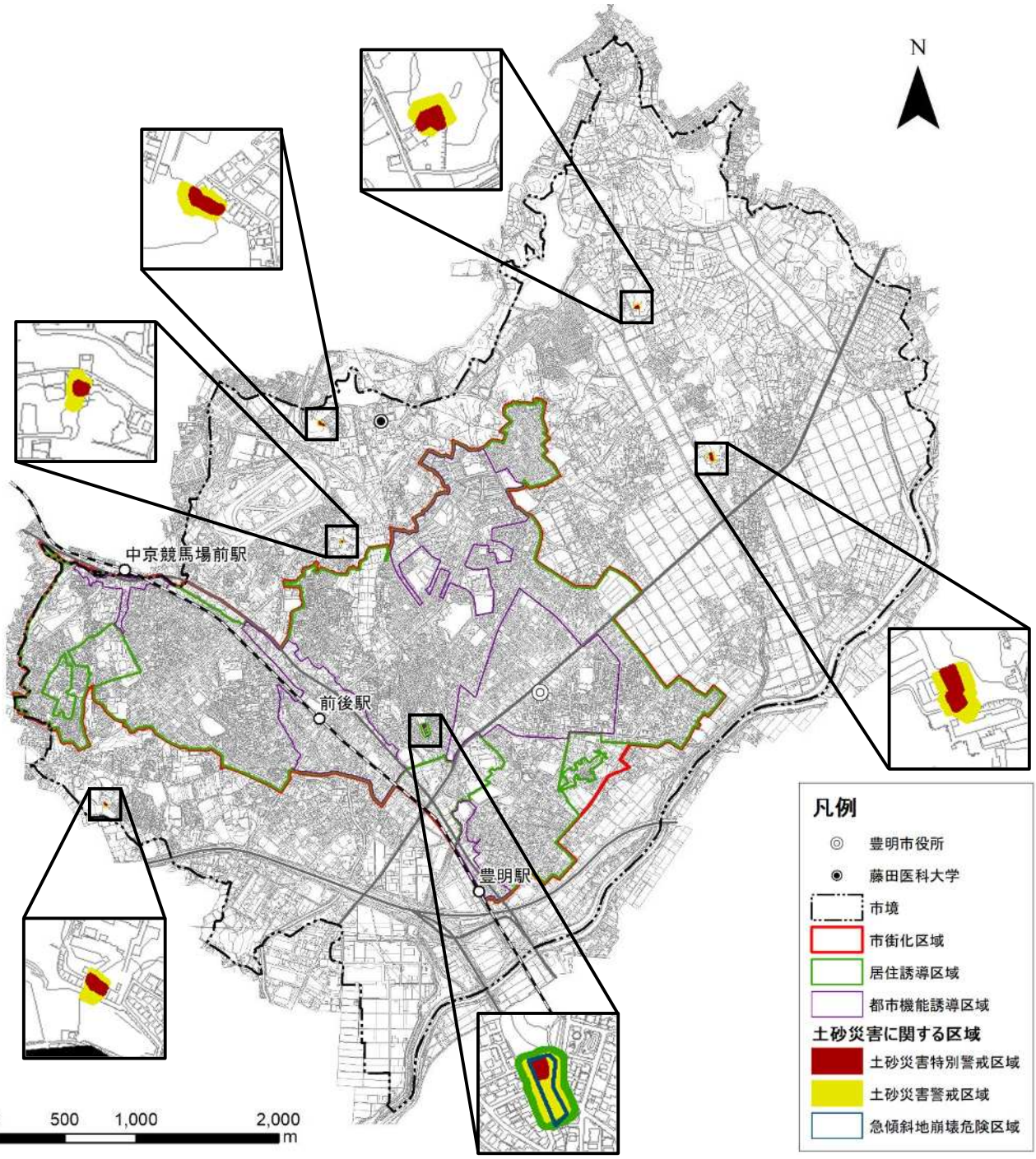
資料：愛知県　高潮浸水想定区域図（令和３年６月 11 日公表）の GIS データより作成

③土砂災害

●土砂災害に関する区域

土砂災害警戒区域は６箇所指定されており、全て土砂災害特別警戒区域も指定されています。そのうち１箇所は前後駅の東側の市街化区域内に指定されており、急傾斜地崩壊危険区域も指定されています。

図　土砂災害に関する区域（土砂災害警戒区域・特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域）



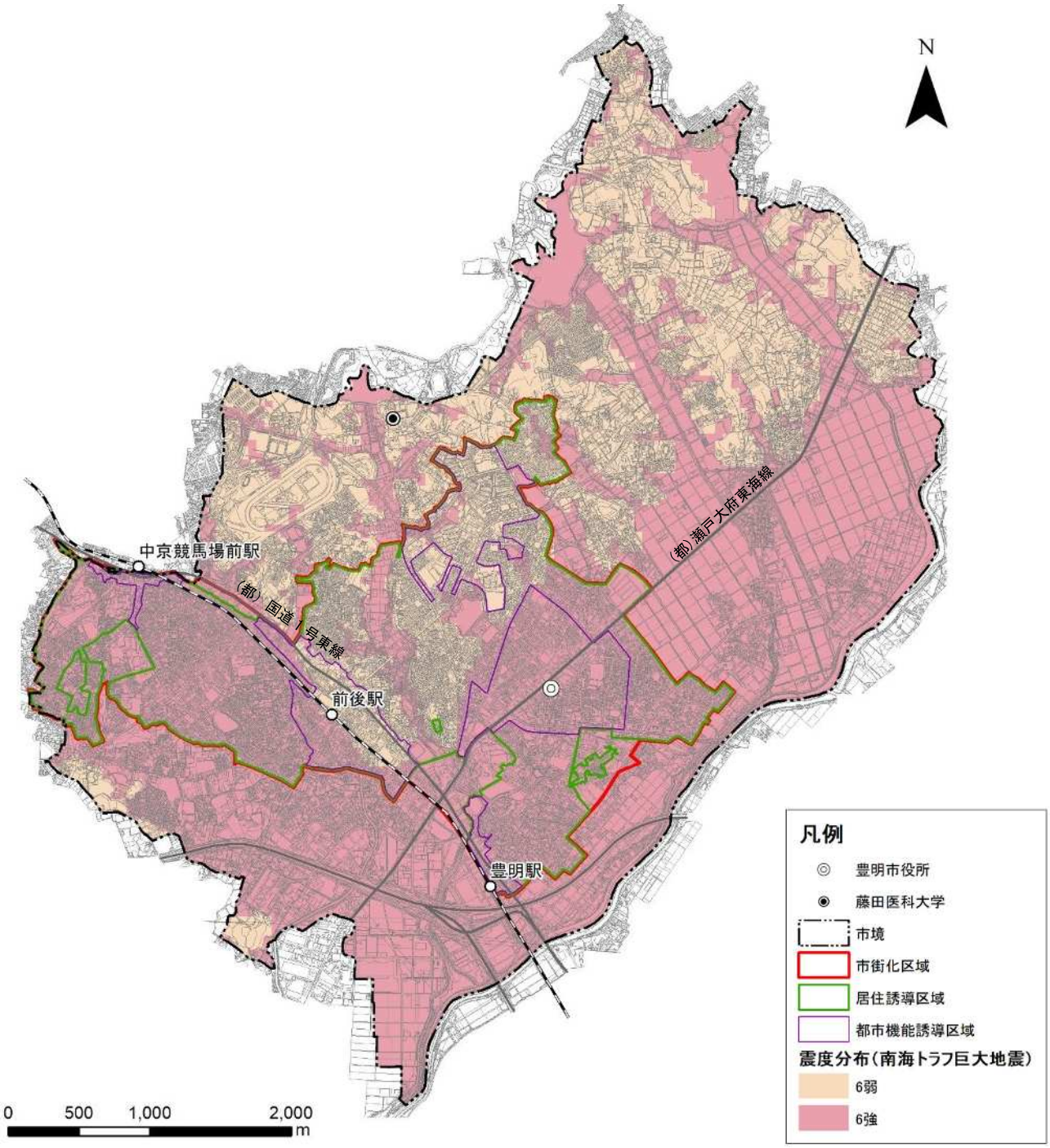
資料：マップあいち（令和７年３月 31 日時点）、豊明市提供データ

④地震

●震度分布（南海トラフ巨大地震）

南海トラフ巨大地震が起こった場合の震度分布をみると、市全域で震度６弱以上の揺れが想定されています。特に(都)瀬戸大府東海線の南側や(都)国道１号東線の南側、河川沿いの地区などでは震度６強の揺れが想定されています。

図　震度分布（南海トラフ巨大地震）

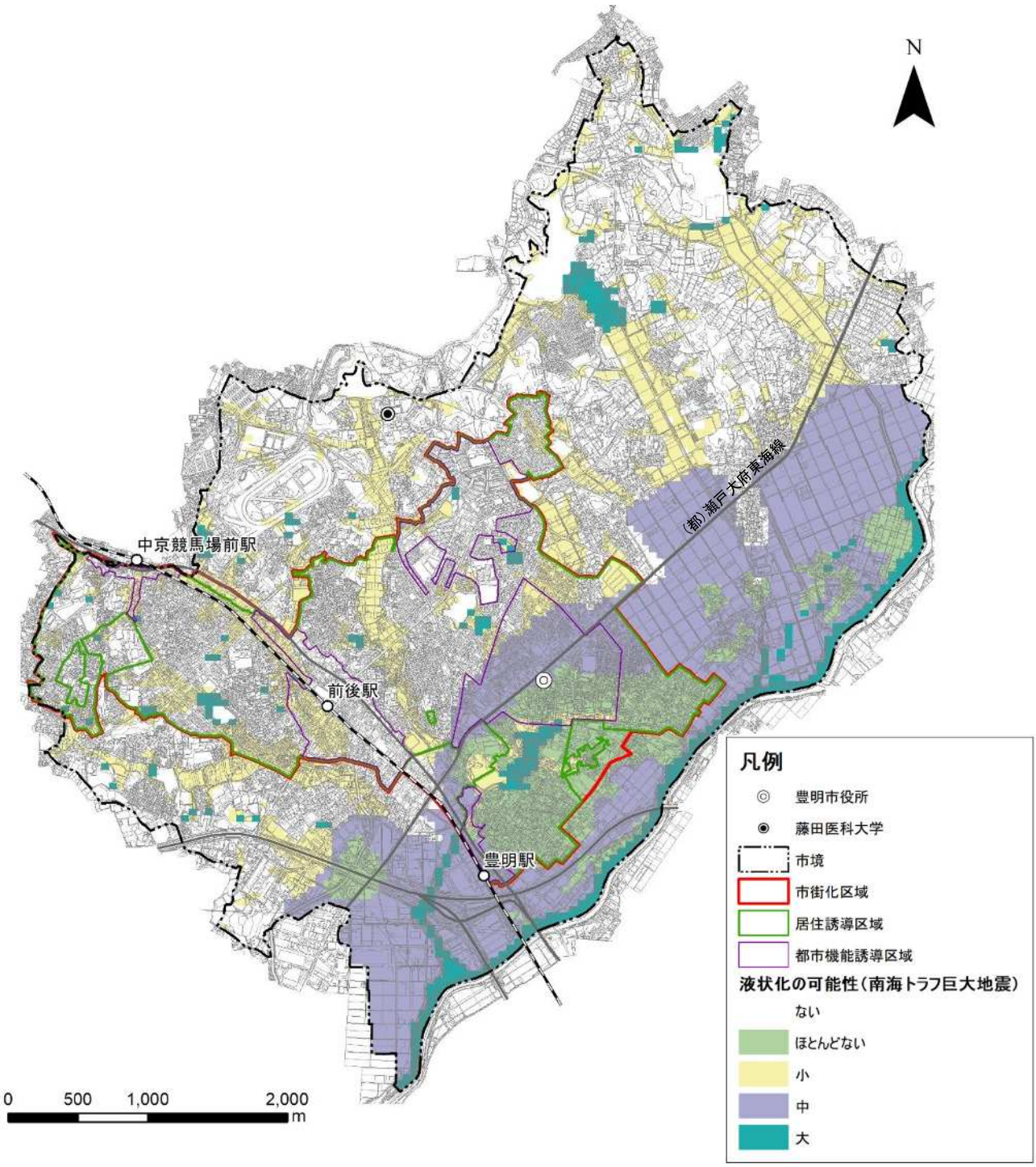


資料：豊明市防災マップ（令和３年４月）のGISデータより作成

●液状化の可能性（南海トラフ巨大地震）

南海トラフ巨大地震が起こった場合の液状化の可能性をみると、広範囲で液状化が発生する可能性があり、特に(都)瀬戸大府東海線の南側や河川沿いの地区などで液状化の可能性が大きくなっています。

図　液状化の可能性（南海トラフ巨大地震）



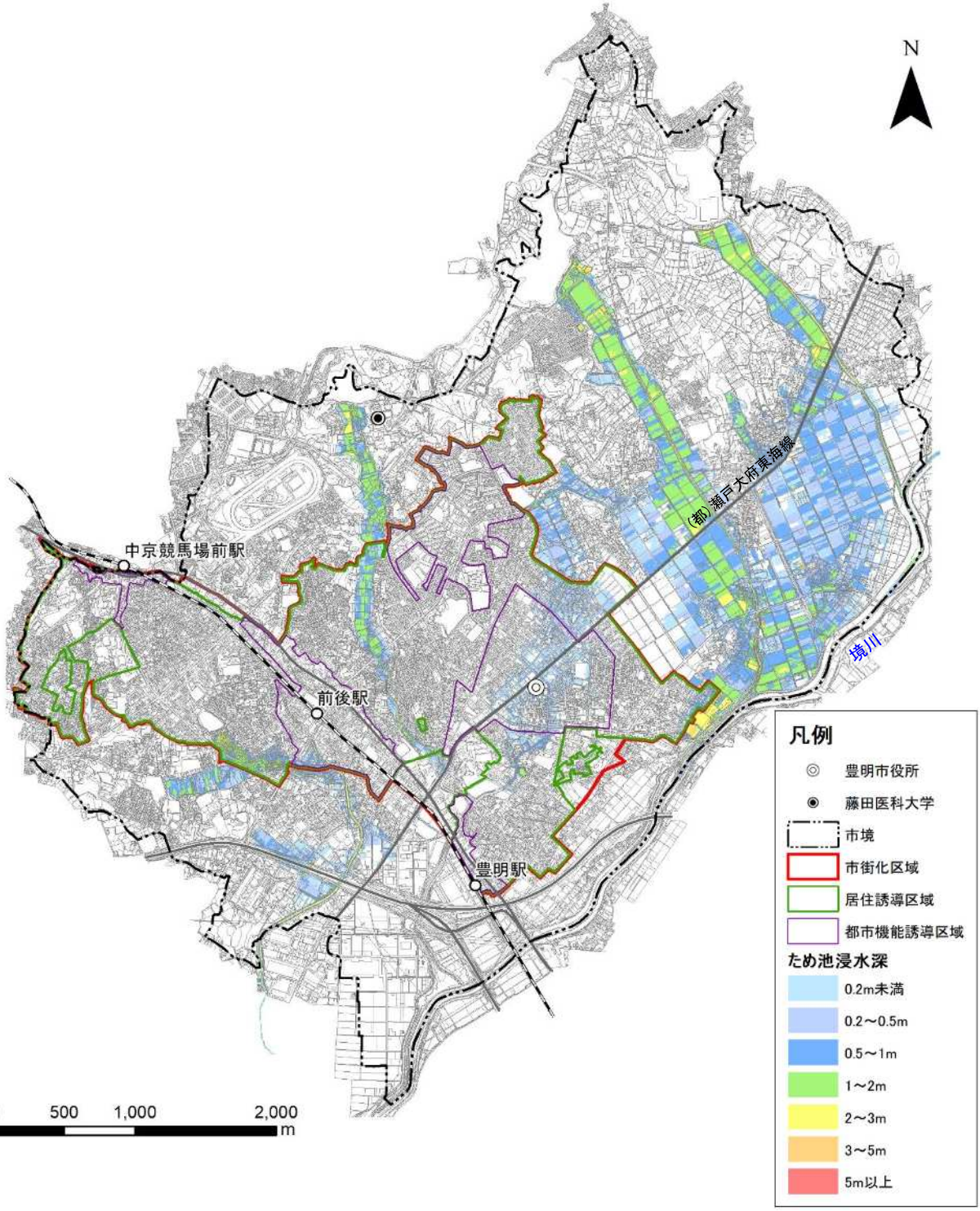
資料：豊明市防災マップ（令和３年４月）のGISデータより作成

⑤ため池

●ため池浸水深

地震によりため池の堤防が決壊した場合、前後駅の南側や藤田医科大学の西側から前後駅にかけての区域、豊明市役所周辺、東部の市街化調整区域の広範囲が浸水すると想定されており、２ｍ以上の区域もみられます。

図　ため池浸水深



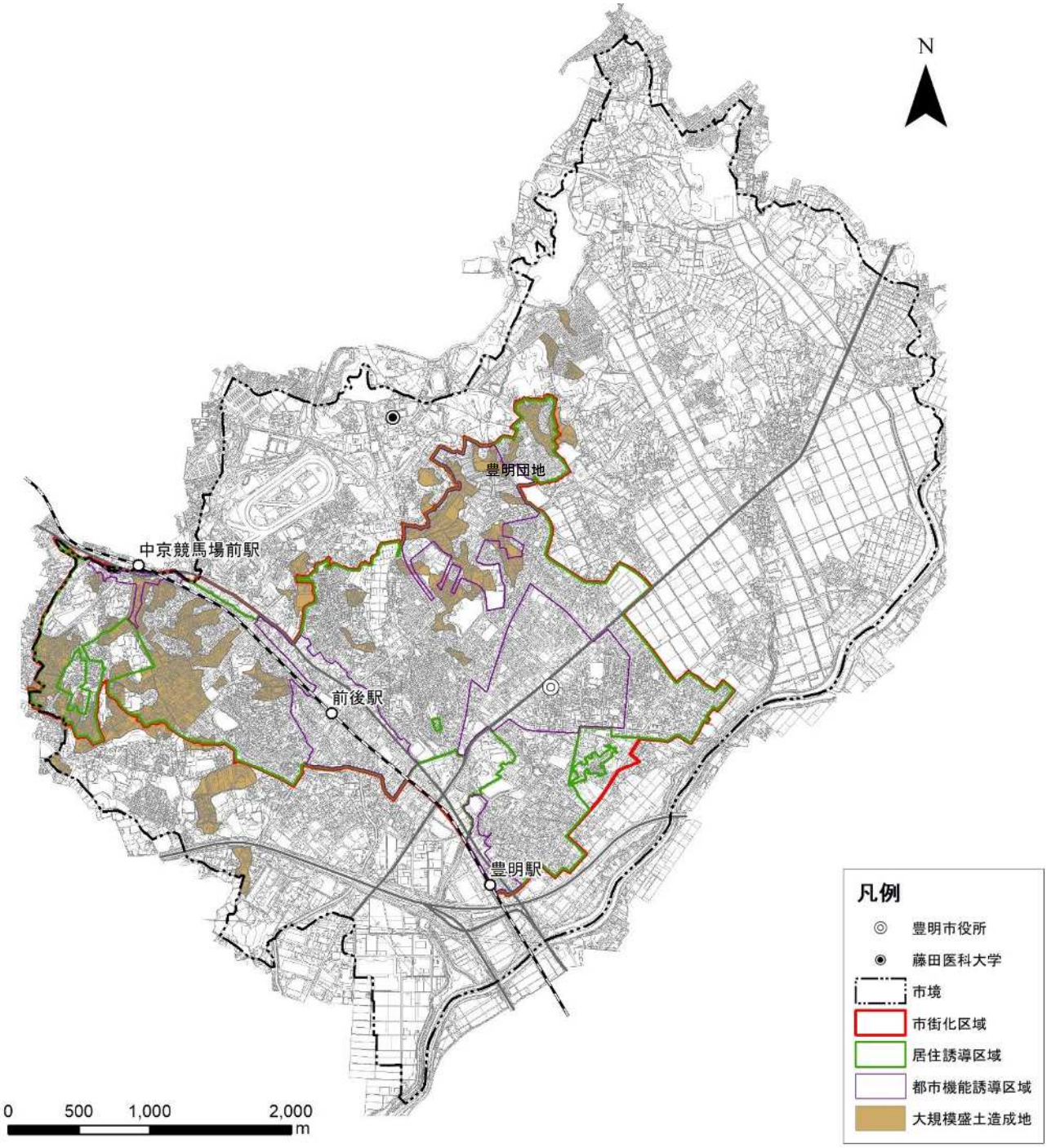
資料：豊明市提供データ

⑥その他

●大規模盛土造成地

大規模盛土造成地は、豊明団地周辺や西部の市街化区域内に多くみられます。なお、「豊明市大規模盛土造成地変動予測調査（令和３年度）」における優先度評価の結果、早期に第二次スクリーニングを実施すべき大規模盛土造成地は、確認されませんでした。

図　大規模盛土造成地



資料：豊明市提供データ

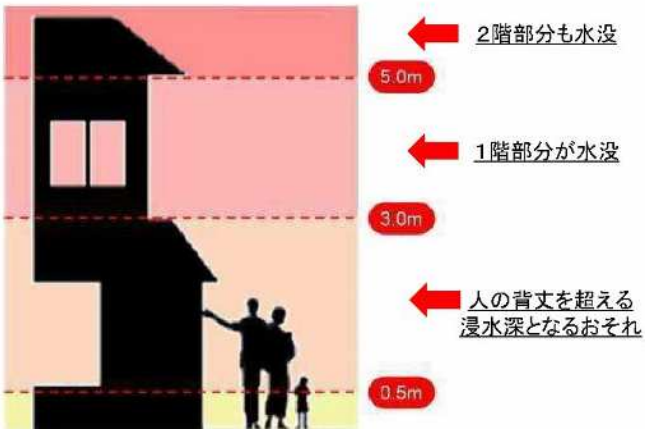
（2）災害リスク分析の目安

1）洪水・内水

①浸水深

浸水深のリスクについては、下図の「浸水深と人的被害リスクのイメージ」を参照し、1階床上が浸水する浸水深0.5m、２階床上まで浸水し２階への垂直避難が困難になる浸水深３ｍを目安とします。

図　浸水深と人的被害リスクのイメージ



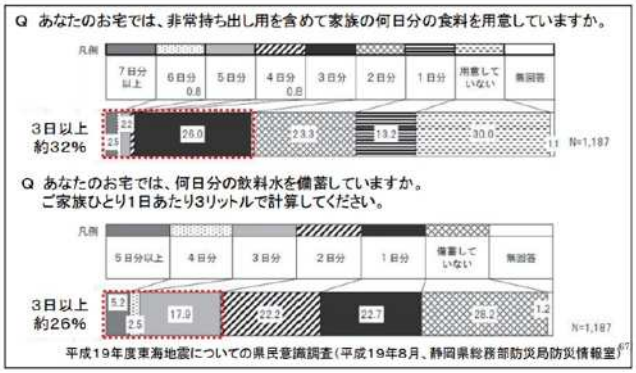
資料：立地適正化計画の手引き【資料編】（令和６年４月改訂）（国土交通省）

②浸水継続時間

浸水継続時間のリスクについては、下図の「浸水継続時間と避難生活環境」を参照し、健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じる恐れがあるとされる浸水継続時間３日以上を目安とします。

図　浸水継続時間と避難生活環境

○各家庭における飲料水や食料等の備蓄は、3日分以内の家庭が多いものと推察され、3日以上孤立すると飲料水や食料等が不足し、健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じる恐れがある。
○浸水継続時間が長く長期の孤立が想定される地域の有無に注意する必要がある。



資料：立地適正化計画の手引き【資料編】（令和６年４月改訂）（国土交通省）

③家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋倒壊のリスクについては、下図の「家屋倒壊等氾濫想定区域のイメージ」を参照し、家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）は木造住宅、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は建物が区域内にあるかどうかを目安とします。

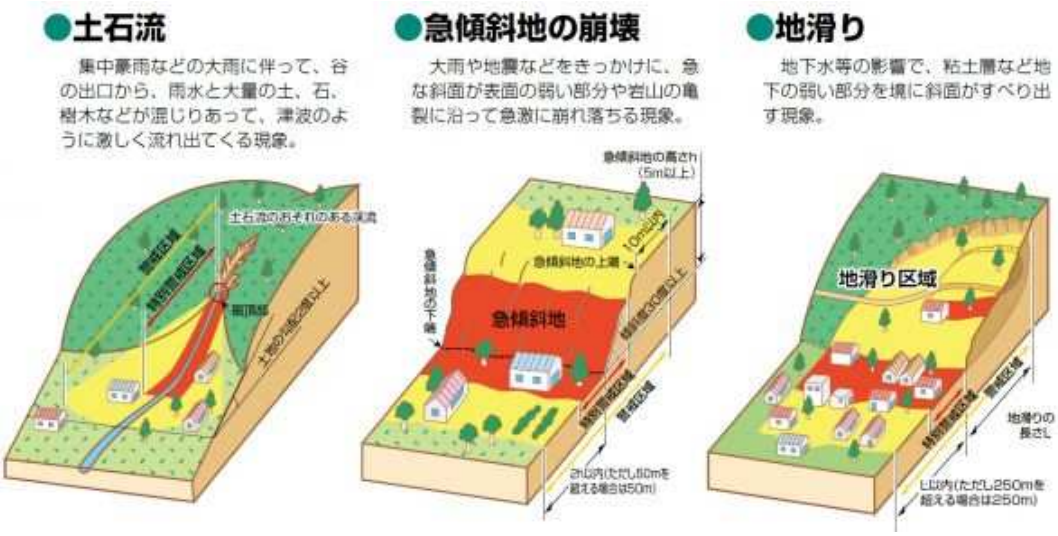
図　家屋倒壊等氾濫想定区域のイメージ

資料：国土交通省中部地方整備局 HP

2）土砂災害

土砂災害のリスクについては、土砂災害に関する区域（土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域）の区域内に建物があるかどうかを目安とします。

図　土砂災害警戒区域等の概要



資料：愛知県 HP

3）地震

地震の揺れによるリスクについては、下図の「地震の揺れによる被害想定」を参照し、震度６強の揺れが想定されている区域内に古い木造住宅があるかどうかを目安とします。また、液状化によるリスクについては、液状化の可能性がある区域内に建物があるかどうかを目安とします。

図　地震の揺れによる被害想定

資料：豊明市防災マップ（令和３年４月）

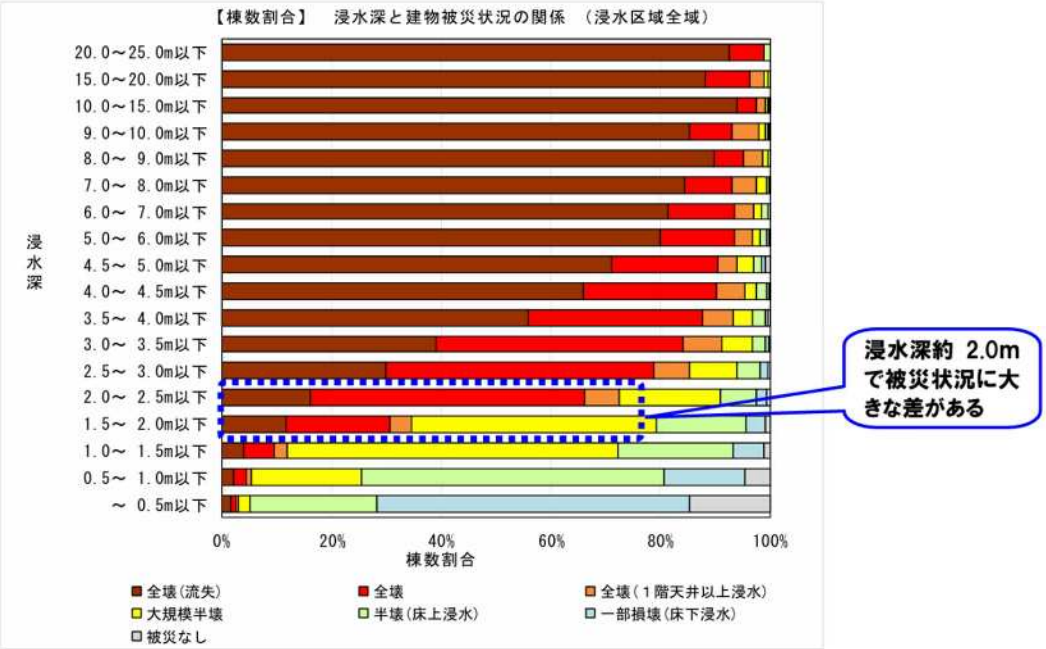
図　液状化現象のイメージ

資料：豊明市防災マップ（令和３年４月）

4)ため池

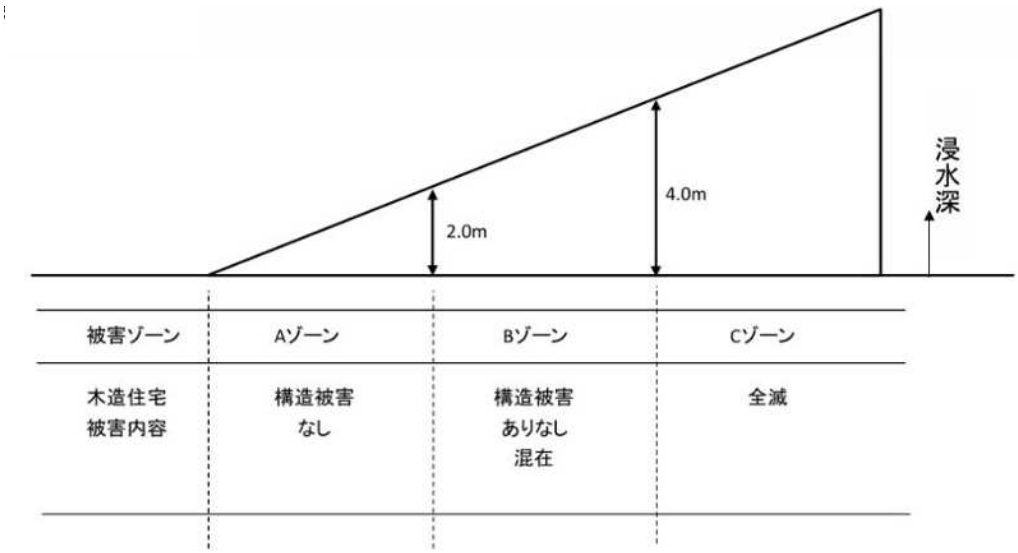
ため池氾濫の特徴としては、決壊することで一気に水が流れ出すため、急激な氾濫流による木造住宅の倒壊・流出が発生します。また、津波の考え方ではありますが、下図の「浸水深と建物被災状況の関係」や「木造住宅被害内容」のように、浸水深２ｍ以上になると木造住宅が倒壊・流出するリスクが高くなります。このことから、ため池浸水深のリスクについては、浸水深２ｍ以上の区域内に木造住宅があるかどうかを目安とします。

図　浸水深と建物被災状況の関係



資料：国土交通省「東日本大震災による被害現況調査結果について（第１次報告）」

図　木造住宅被害内容



資料：東北工業大学「東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会第２次報告会資料」

5)その他

①避難施設

避難施設の徒歩圏は、「津波避難対策推進マニュアル検討会報告書（消防庁)」を参照し、避難できる限界の距離 500m を目安とします。

②医療施設

医療施設は、「水害の被害指標分析の手引（国土交通省)」を参照し、自動車（救急車）の走行困難、災害時要援護者の避難が困難な水位である浸水深 0.3m を目安とします。

（3）災害リスク分析

1）分析の考え方

各種災害ハザードの整理結果を踏まえ、洪水・内水、土砂災害、地震、ため池について、災害ハザード情報と各種都市情報等を重ね合わせ、災害リスクを分析します。なお、高潮については、居住誘導区域への被害が想定されておらず、産業系の土地利用が主となることから、分析対象外とします。また、大規模盛土造成地についても、優先度評価の結果、早期に第二次スクリーニングを実施すべき箇所は確認されなかったことから、今後も継続的に状況を注視することとし、分析対象外とします。

分析項目は、災害リスク分析の目安を踏まえ、以下に示す項目により分析します。

表　災害リスク分析項目

種別	規模	災害ハザード情報	分析の視点	分析項目
洪水・内水	計画規模	洪水・内水浸水深	A 人命保護	・3m 以上浸水する住宅 ・上記のうち垂直避難が困難な住宅 ・上記のうち避難施設※1 徒歩圏外の住宅 ・3m 以上浸水する要配慮者利用施設※2 ・上記のうち垂直避難が困難な施設
			B 市民生活、経済	・0.5m 以上浸水する老朽住宅※3 ・浸水する商業施設 ・浸水する工業施設
			C 都市機能の持続性、影響	・0.3m 以上浸水する医療施設※4
	想定最大規模	洪水・内水浸水深	A 人命保護	・3m 以上浸水する住宅 ・上記のうち垂直避難が困難な住宅 ・上記のうち避難施設※1 徒歩圏外の住宅 ・3m 以上浸水する要配慮者利用施設※2 ・上記のうち垂直避難が困難な施設
		洪水浸水継続時間	A 人命保護	・3日以上浸水する住宅
		家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流・河岸侵食）	A 人命保護	・氾濫流の区域にかかる木造住宅 ・河岸侵食の区域にかかる住宅
土砂災害	－	土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険区域	A 人命保護	・土砂災害に関する区域にかかる住宅※5
地震	南海トラフ巨大地震	震度分布	A 人命保護	・震度6強の区域にかかる老朽木造住宅
	南海トラフ巨大地震	液状化の可能性	A 人命保護	・液状化の可能性がある区域※6 にかかる住宅
ため池	－	浸水深	A 人命保護	・2m 以上浸水する木造住宅

※建物の定義
住宅：「住宅」、「共同住宅」、「店舗等併用住宅」、「店舗等併用共同住宅」、「作業所併用住宅」
商業施設：「業務施設」、「商業施設」、「宿泊施設」、「娯楽施設」、「遊戯施設」、「商業系用途複合施設」
工業施設：「運輸倉庫施設」、「重工業施設」、「軽工業施設」、「サービス工業施設」、「家内工業施設」、「危険物貯蔵・処理施設」
※建物に関する分析は、都市計画基礎調査が実施されている市街化区域のみを対象（土砂災害は除く）
※1 避難施設：「豊明市地域防災計画（令和 7 年 1 月修正）」の洪水・内水氾濫に対応した指定緊急避難場所
※2 要配慮者利用施設：「豊明市地域防災計画（令和 7 年 1 月修正）」の浸水想定区域等に属する要配慮者利用施設
※3 老朽住宅：旧耐震基準（昭和 56 年以前）の住宅
※4 医療施設：日常的に利用可能な医療施設（病院・診療所で内科または外科を有する施設）
※5 都市計画基礎調査が実施されていない市街化調整区域は、土砂災害に関する区域にかかる建物を対象
※6 液状化の可能性がある区域：ほとんどない・小・中・大

2）災害リスク分析及び課題の整理

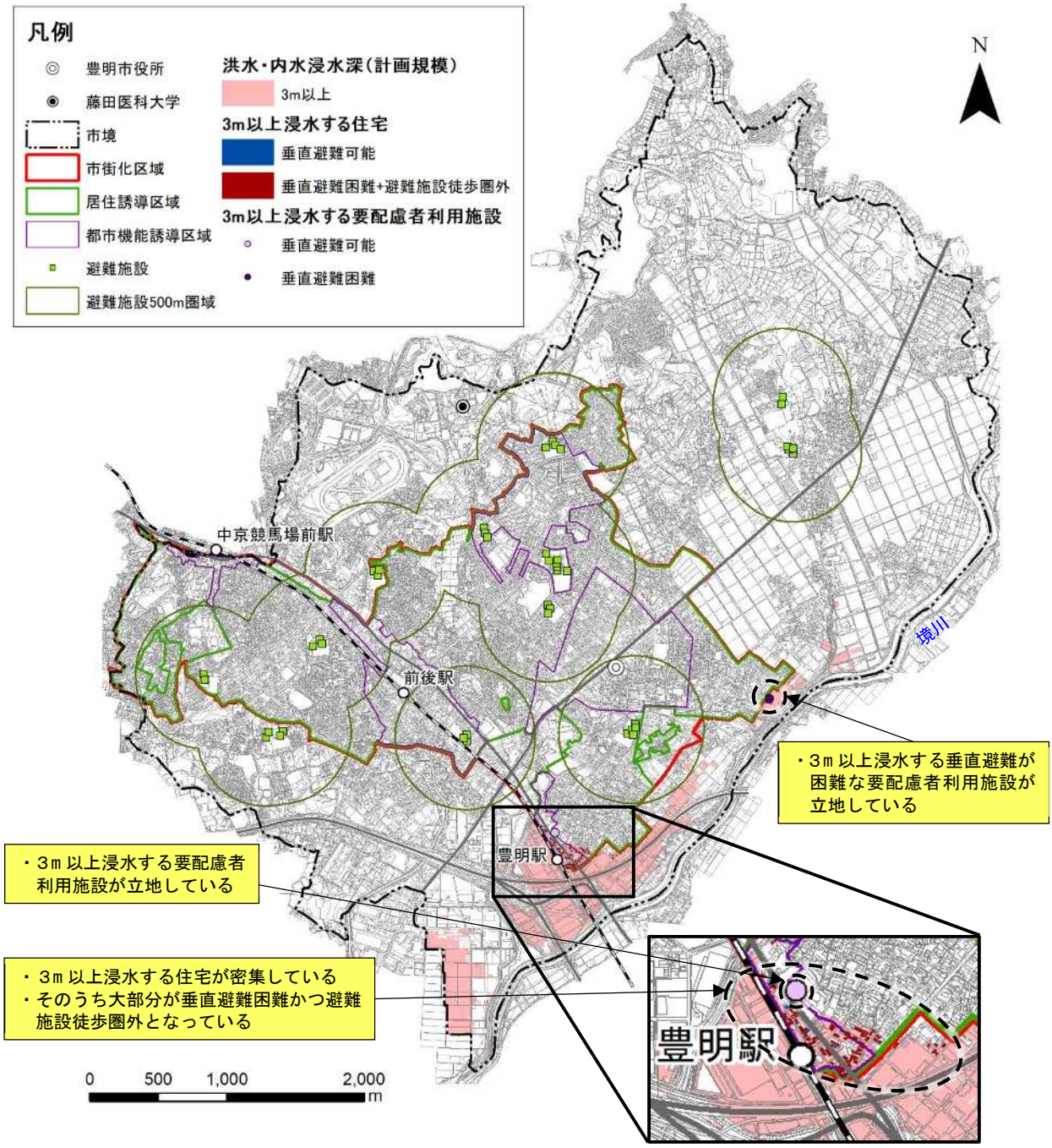
①洪水・内水浸水深（計画規模）

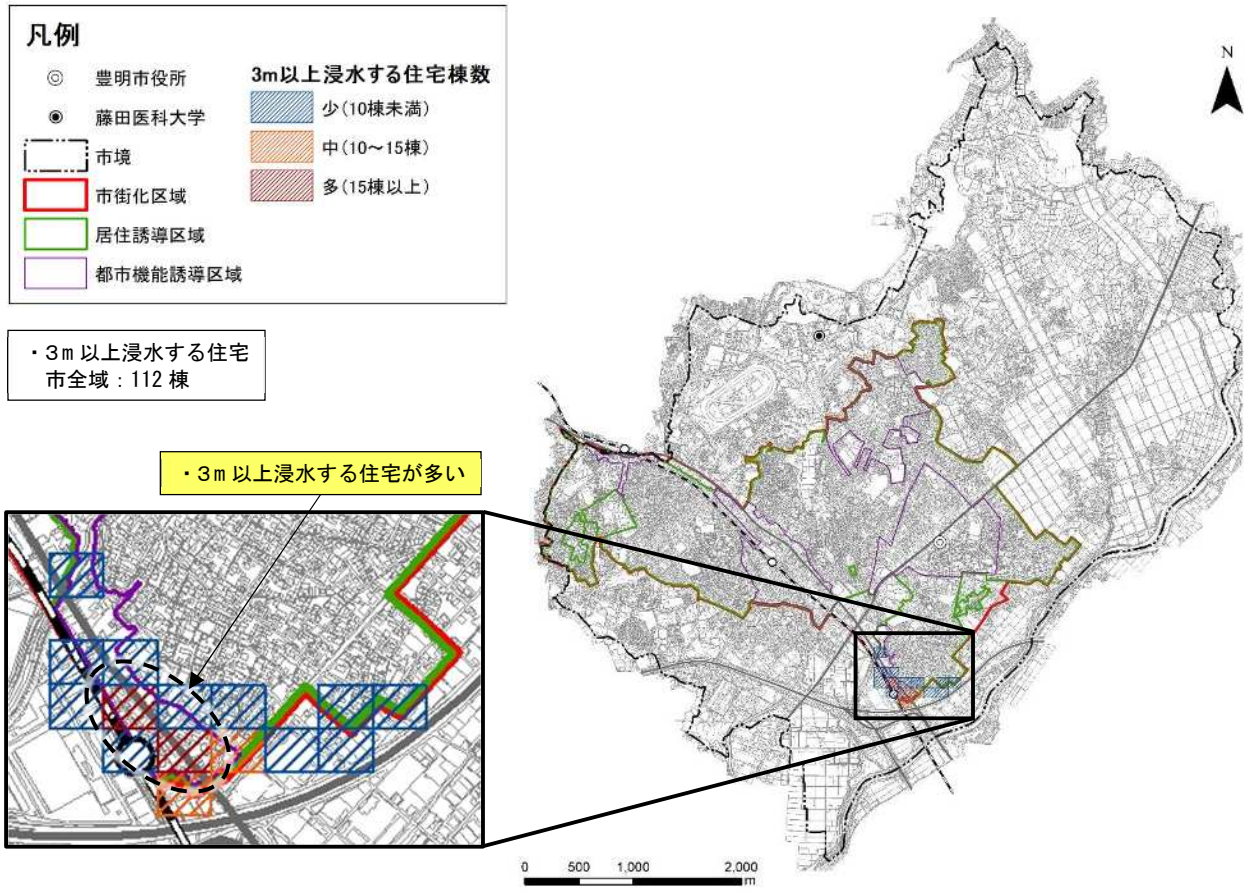
●A 人命保護

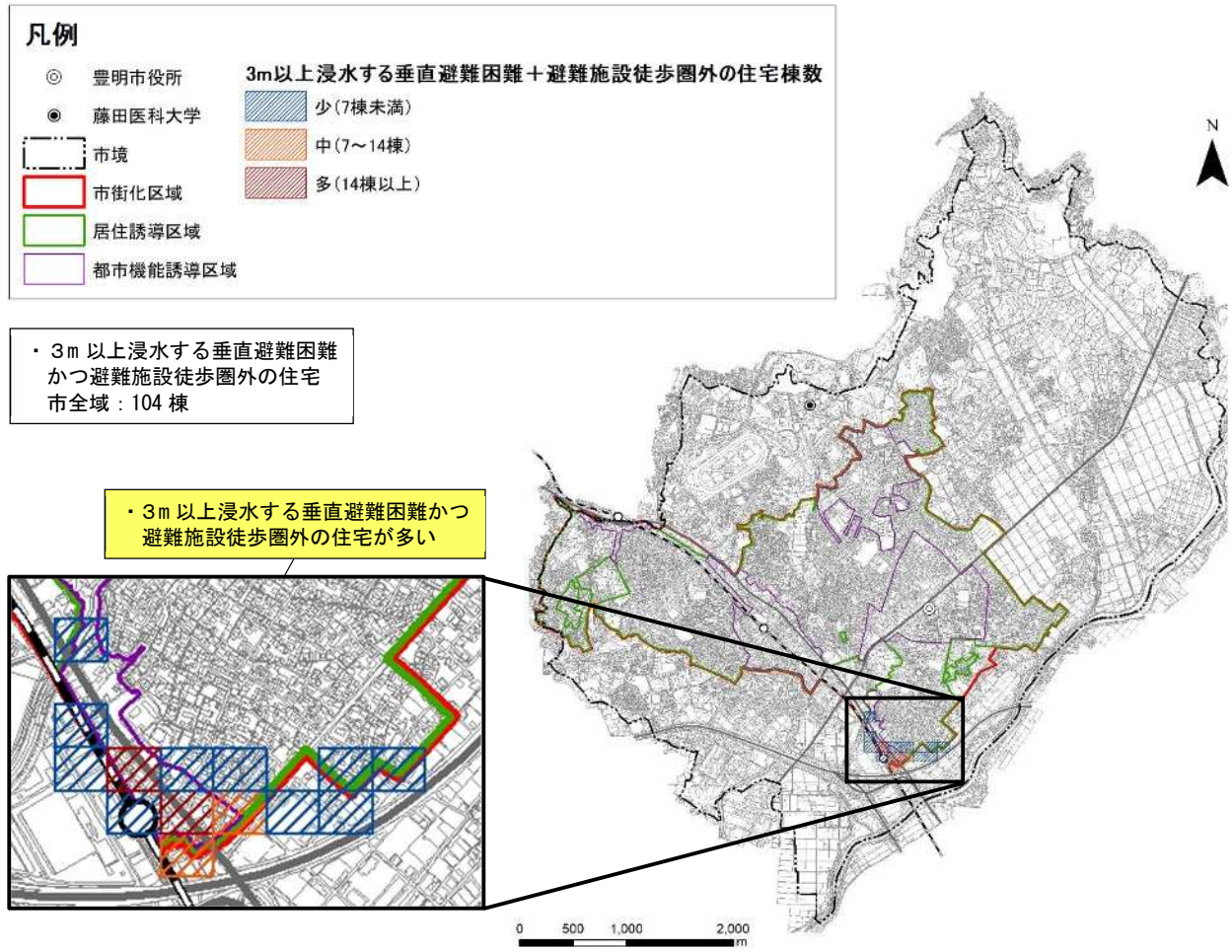
３ｍ以上浸水する住宅が豊明駅東側の市街化区域に密集しています。そのうちの大部分が垂直避難困難かつ避難施設徒歩圏外となっています。また、境川沿いの市街化調整区域では、３ｍ以上浸水する住宅が立地している可能性があります。

３ｍ以上浸水する要配慮者利用施設が豊明駅の北側と境川沿いに立地しています。そのうち境川沿いにある施設は垂直避難が困難となっています。

図　洪水・内水浸水深（計画規模）×避難施設×住宅×要配慮者利用施設




凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
3m以上浸水する住宅棟数
少（10棟未満）
中（10～15棟）
多（15棟以上）
・3m 以上浸水する住宅
市全域：112 棟
・3m 以上浸水する住宅が多い
N
0 500 1,000 2,000
m

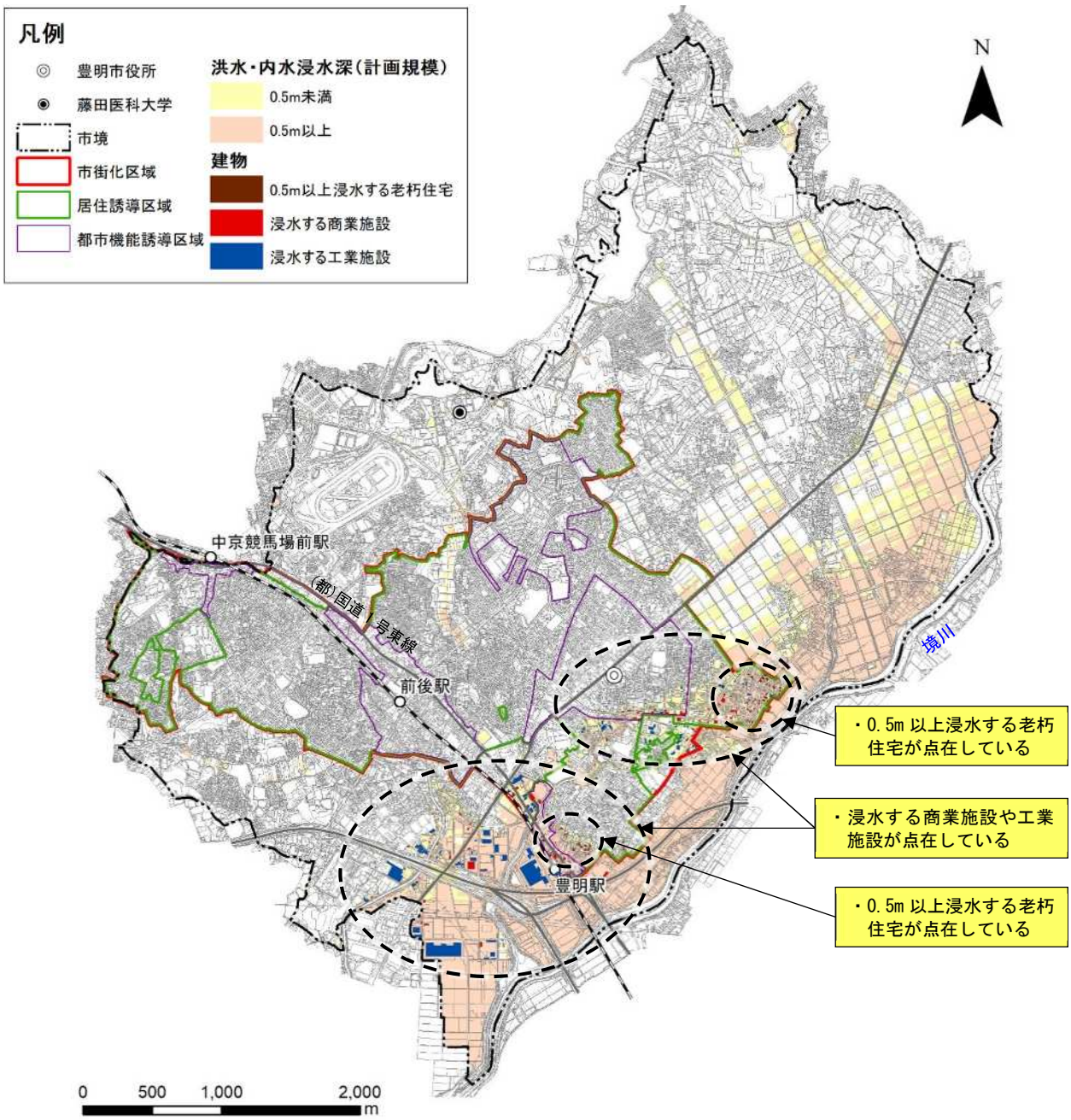

凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
3m以上浸水する垂直避難困難＋避難施設徒歩圏外の住宅棟数
少（7棟未満）
中（7～14棟）
多（14棟以上）
・3m 以上浸水する垂直避難困難
かつ避難施設徒歩圏外の住宅
市全域：104 棟
・3m 以上浸水する垂直避難困難かつ
避難施設徒歩圏外の住宅が多い
N
0 500 1,000 2,000
m

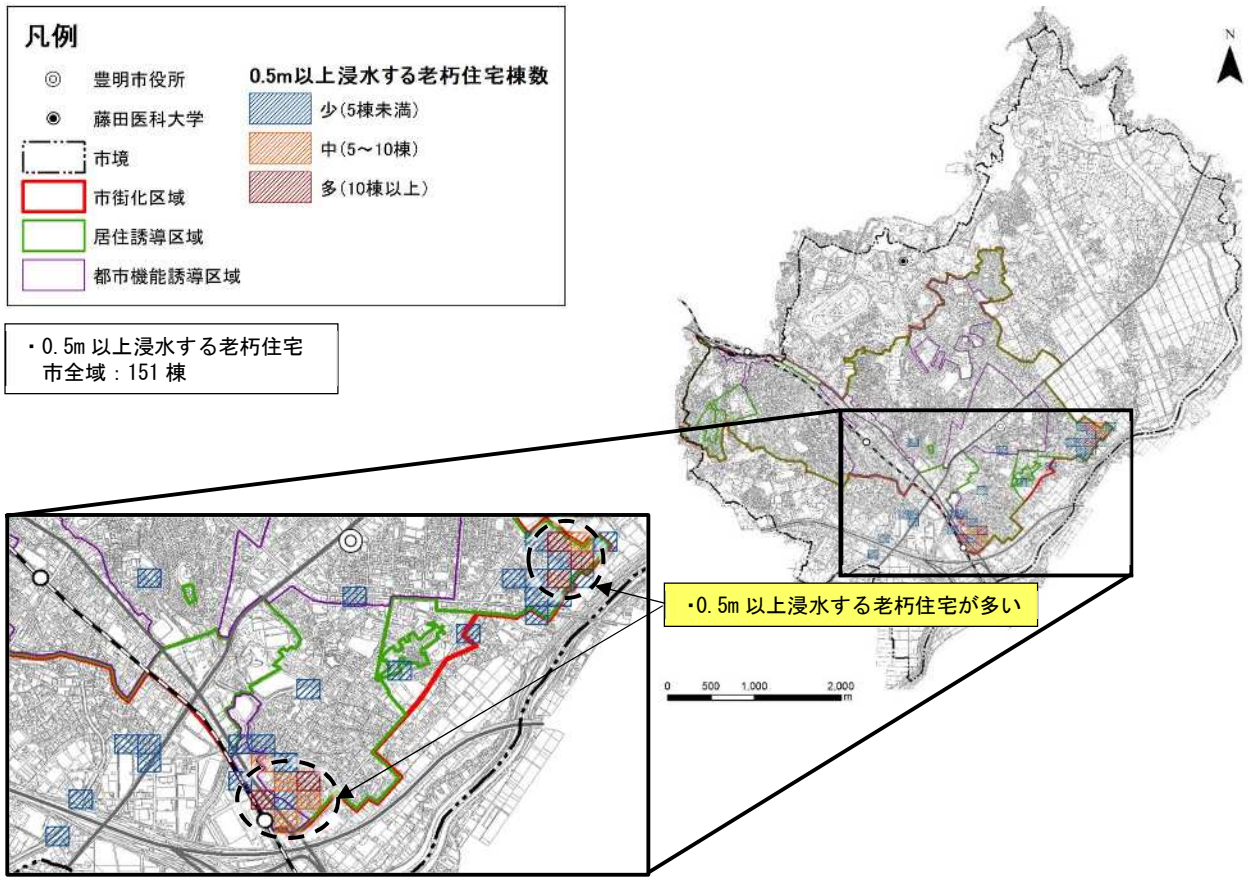
●B 市民生活、経済

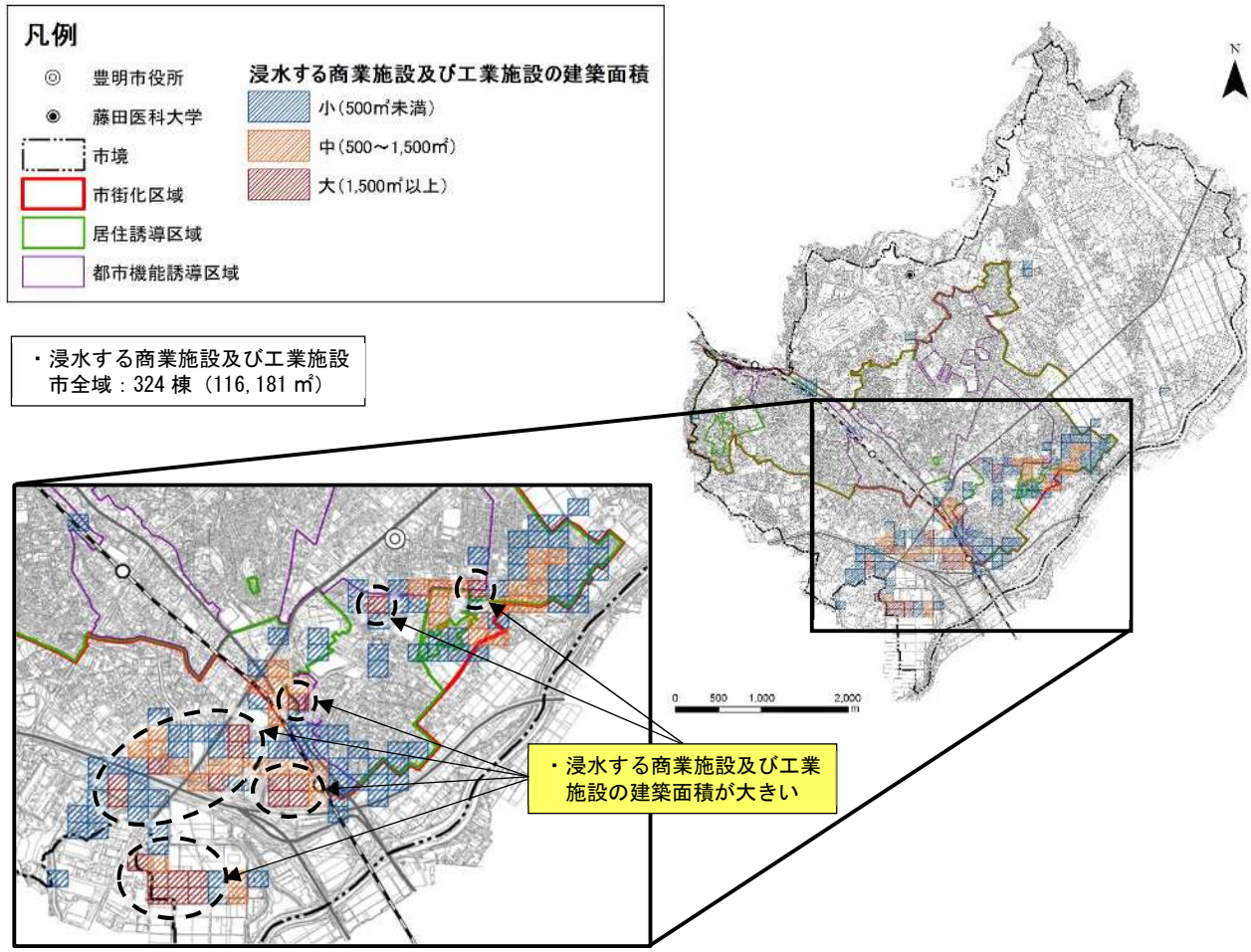
0.5m 以上浸水する老朽住宅が豊明駅の北東側や市街化区域東部に点在しています。また、境川沿いや中小河川沿いの市街化調整区域では、0.5m 以上浸水する住宅が多く、老朽住宅も立地している可能性があります。

浸水する商業施設や工業施設が豊明駅周辺の(都)国道 1 号東線沿道や市街化区域東部、南部の市街化調整区域に点在しています。また、境川沿いや中小河川沿いの市街化調整区域では、浸水する商業施設や工業施設が立地している可能性があります。

図　洪水・内水浸水深（計画規模）×住宅×商業施設×工業施設



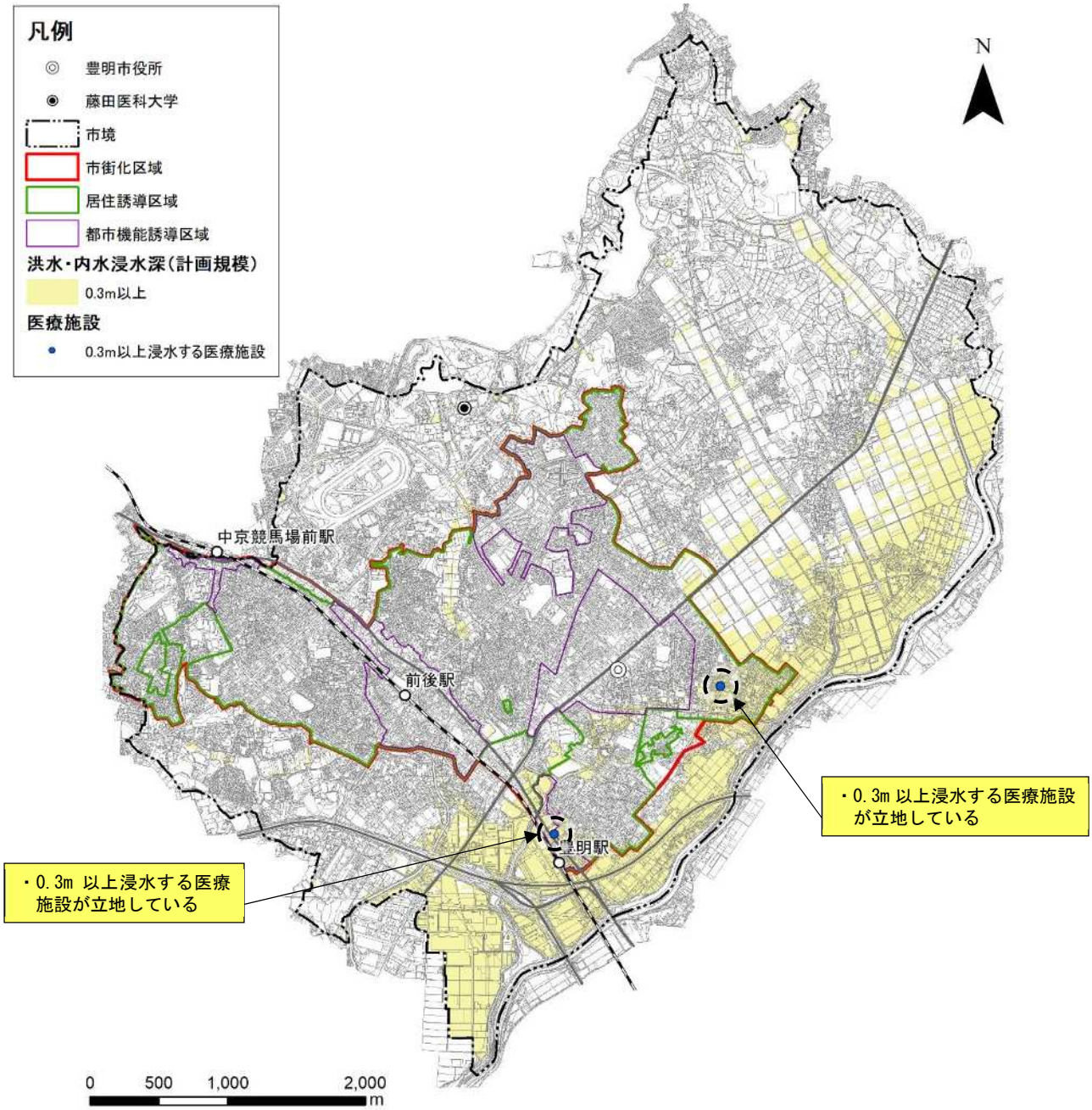

凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
0.5m以上浸水する老朽住宅棟数
少(5棟未満)
中(5～10棟)
多(10棟以上)
・0.5m 以上浸水する老朽住宅
市全域：151 棟
・0.5m 以上浸水する老朽住宅が多い
N
0 500 1,000 2,000
m


凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
浸水する商業施設及び工業施設の建築面積
小(500㎡未満)
中(500～1,500㎡)
大(1,500㎡以上)
・浸水する商業施設及び工業施設
市全域：324 棟（116,181 ㎡）
・浸水する商業施設及び工業施設の建築面積が大きい
N
0 500 1,000 2,000
m

●C 都市機能の持続性、影響

0.3m 以上浸水する医療施設が豊明駅の北側と市街化区域東部に立地しています。

図　洪水・内水浸水深（計画規模）×医療施設



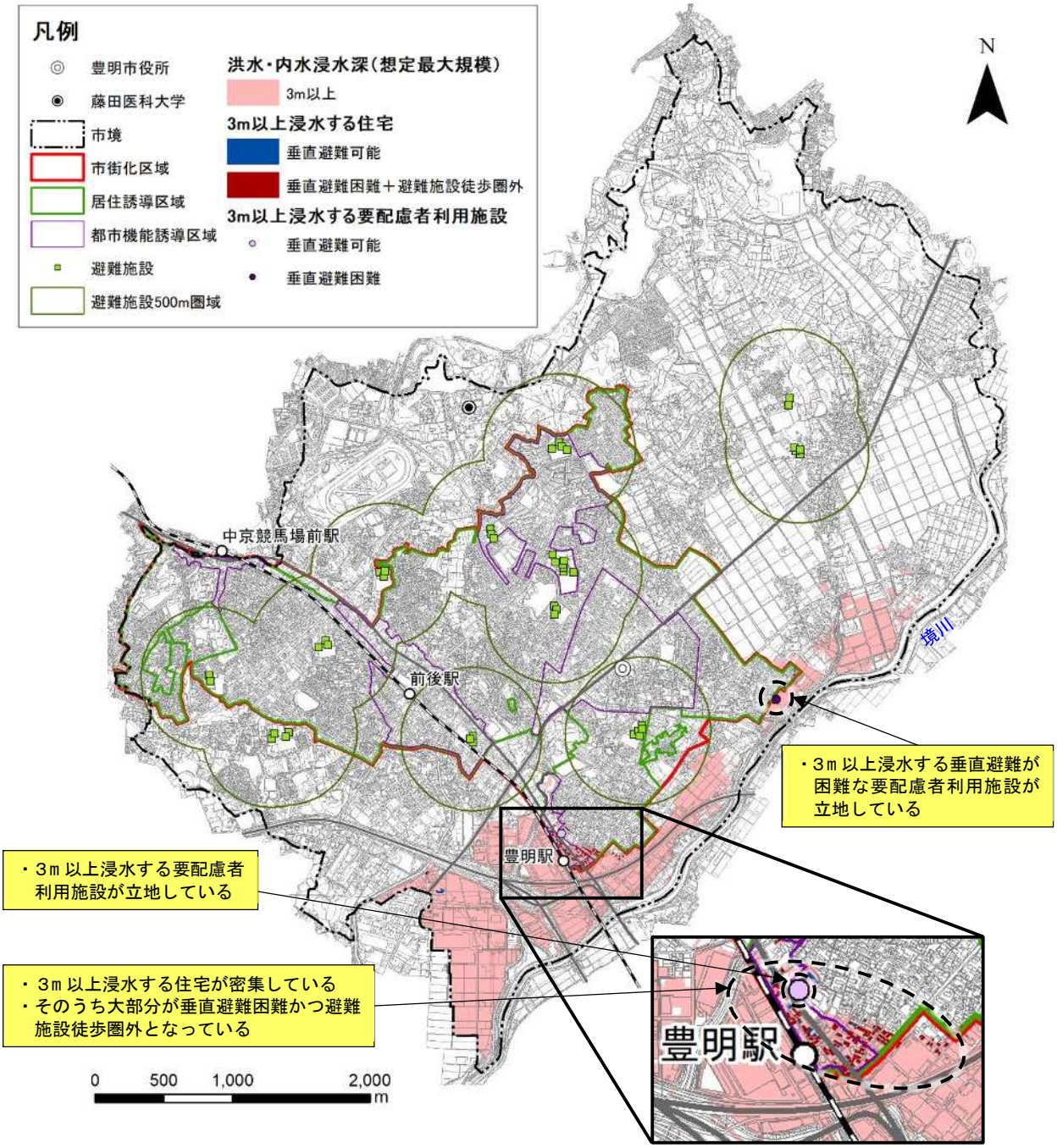
②洪水・内水浸水深（想定最大規模）

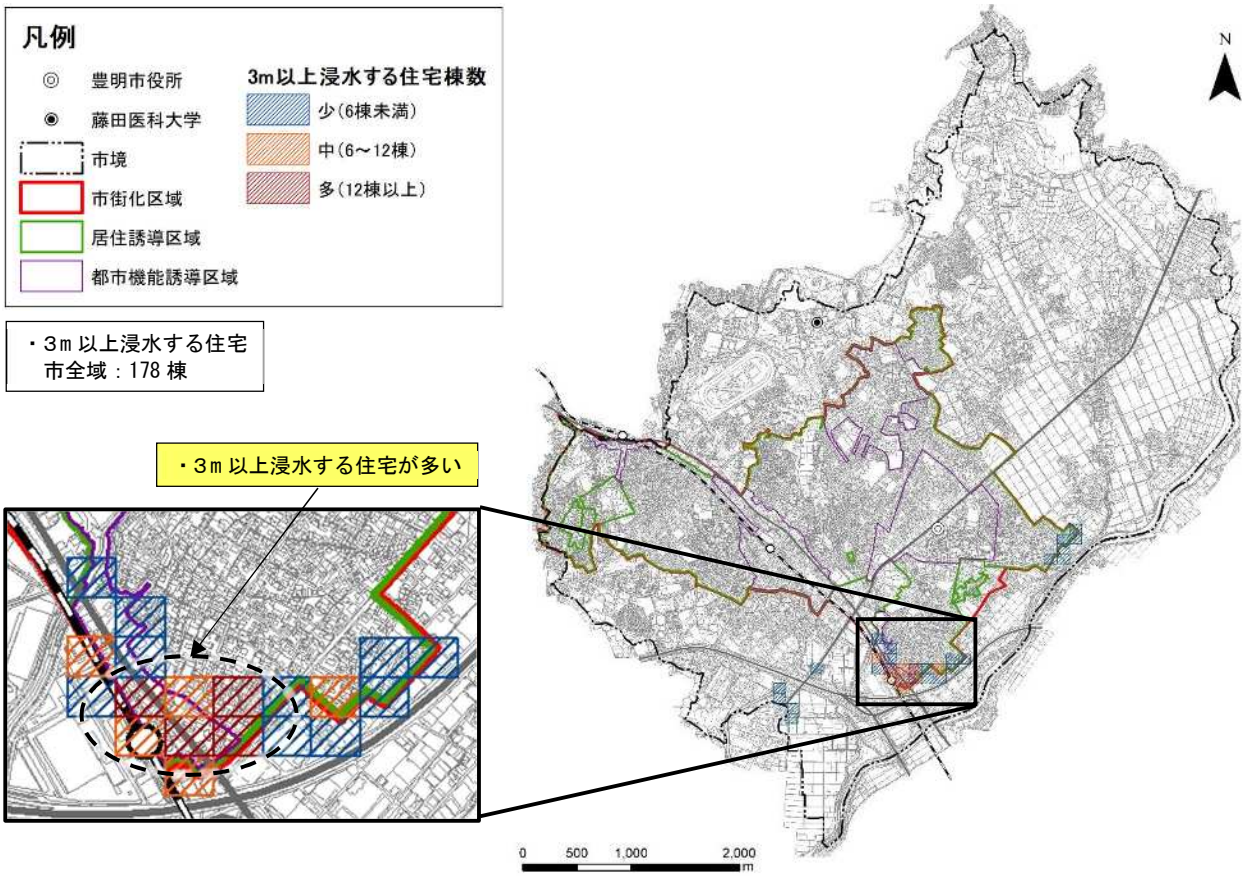
●A 人命保護

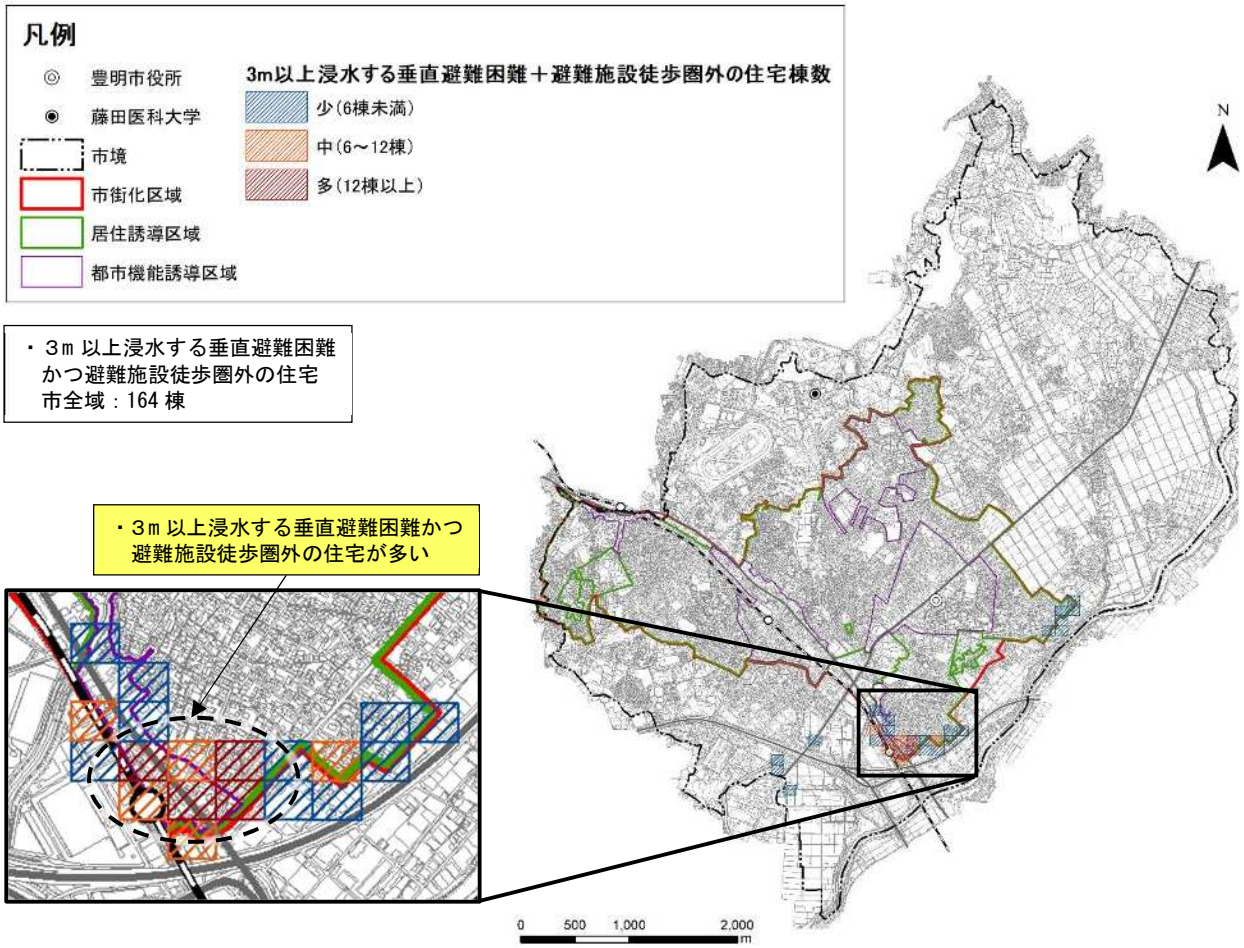
３ｍ以上浸水する住宅が豊明駅東側の市街化区域に密集しています。そのうちの大部分が垂直避難困難かつ避難施設徒歩圏外となっています。また、境川沿いの市街化調整区域では、３ｍ以上浸水する住宅が立地している可能性があります。

３ｍ以上浸水する要配慮者利用施設が豊明駅の北側と境川沿いに立地しています。そのうち境川沿いにある施設は垂直避難が困難となっています。

図　洪水・内水浸水深（想定最大規模）×避難施設×住宅×要配慮者利用施設




凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
3m以上浸水する住宅棟数
少(6棟未満)
中(6～12棟)
多(12棟以上)
・3m 以上浸水する住宅
市全域：178 棟
・3m 以上浸水する住宅が多い
N
0 500 1,000 2,000
m

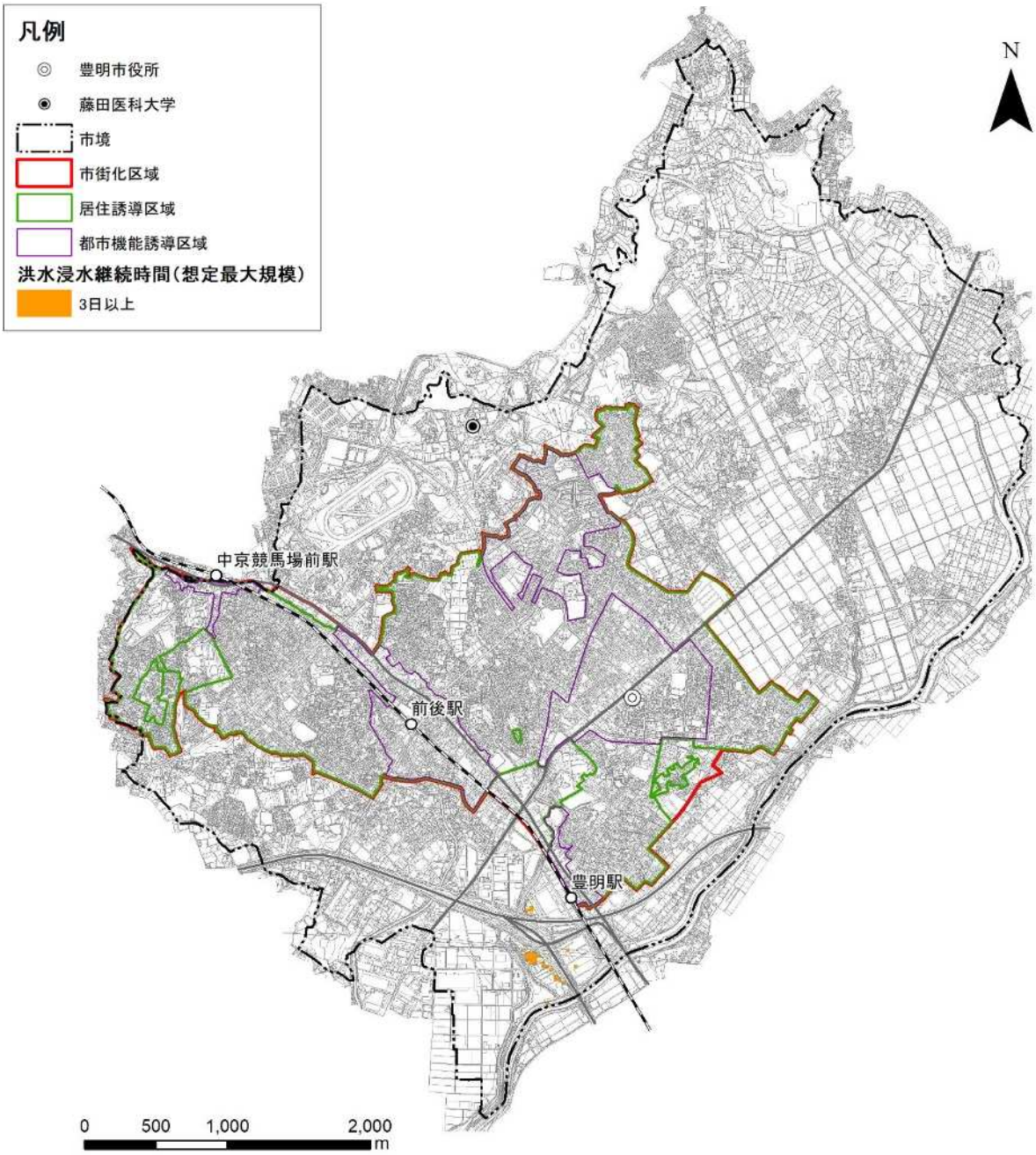

凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
3m以上浸水する垂直避難困難＋避難施設徒歩圏外の住宅棟数
少(6棟未満)
中(6～12棟)
多(12棟以上)
・3m 以上浸水する垂直避難困難
かつ避難施設徒歩圏外の住宅
市全域：164 棟
・3m 以上浸水する垂直避難困難かつ
避難施設徒歩圏外の住宅が多い
N
0 500 1,000 2,000
m

③洪水浸水継続時間（想定最大規模）

●A 人命保護

3 日以上浸水する住宅はみられません。

図　洪水浸水継続時間（境川・逢妻川流域−想定最大規模）×住宅



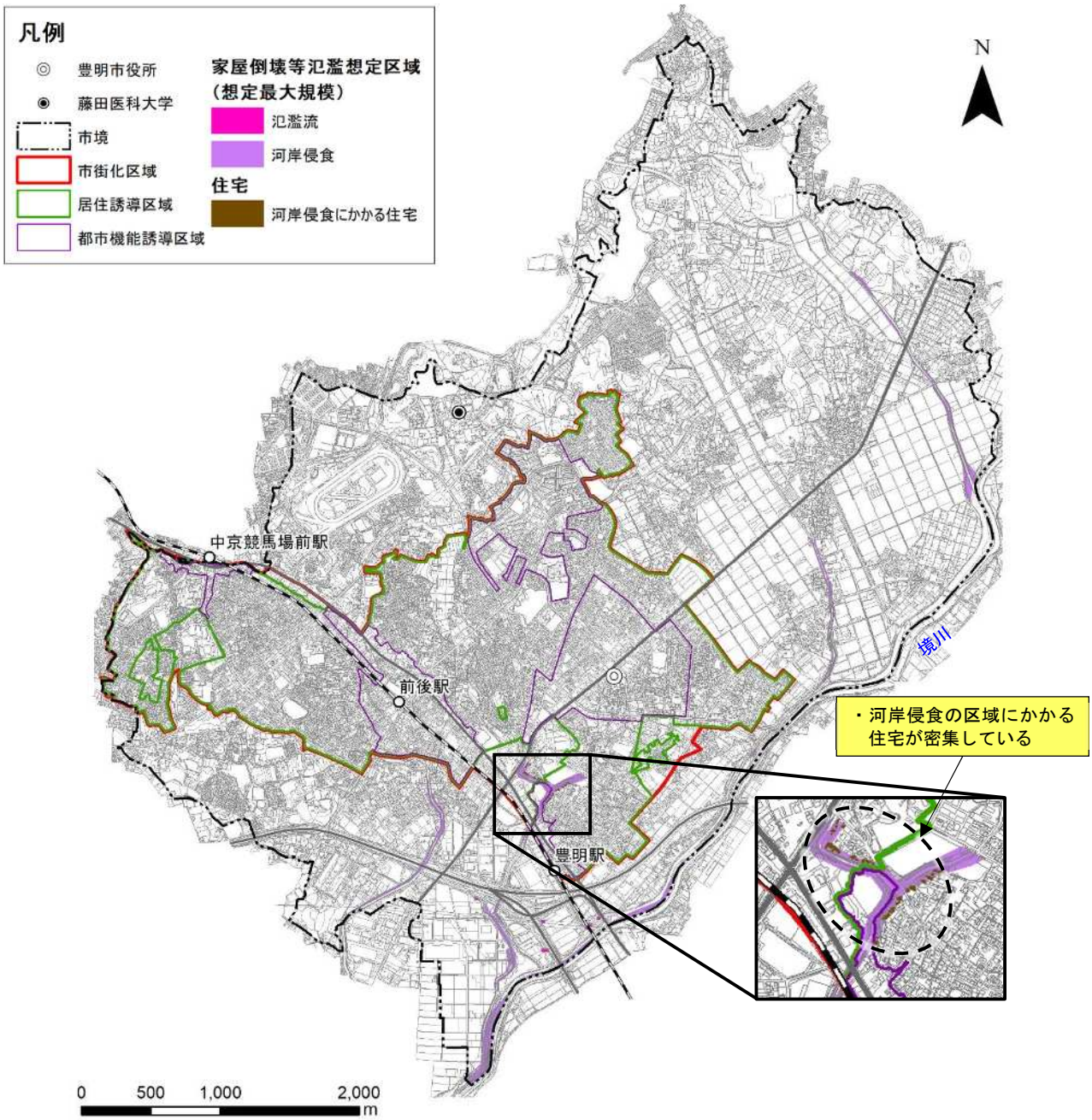
④家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模）

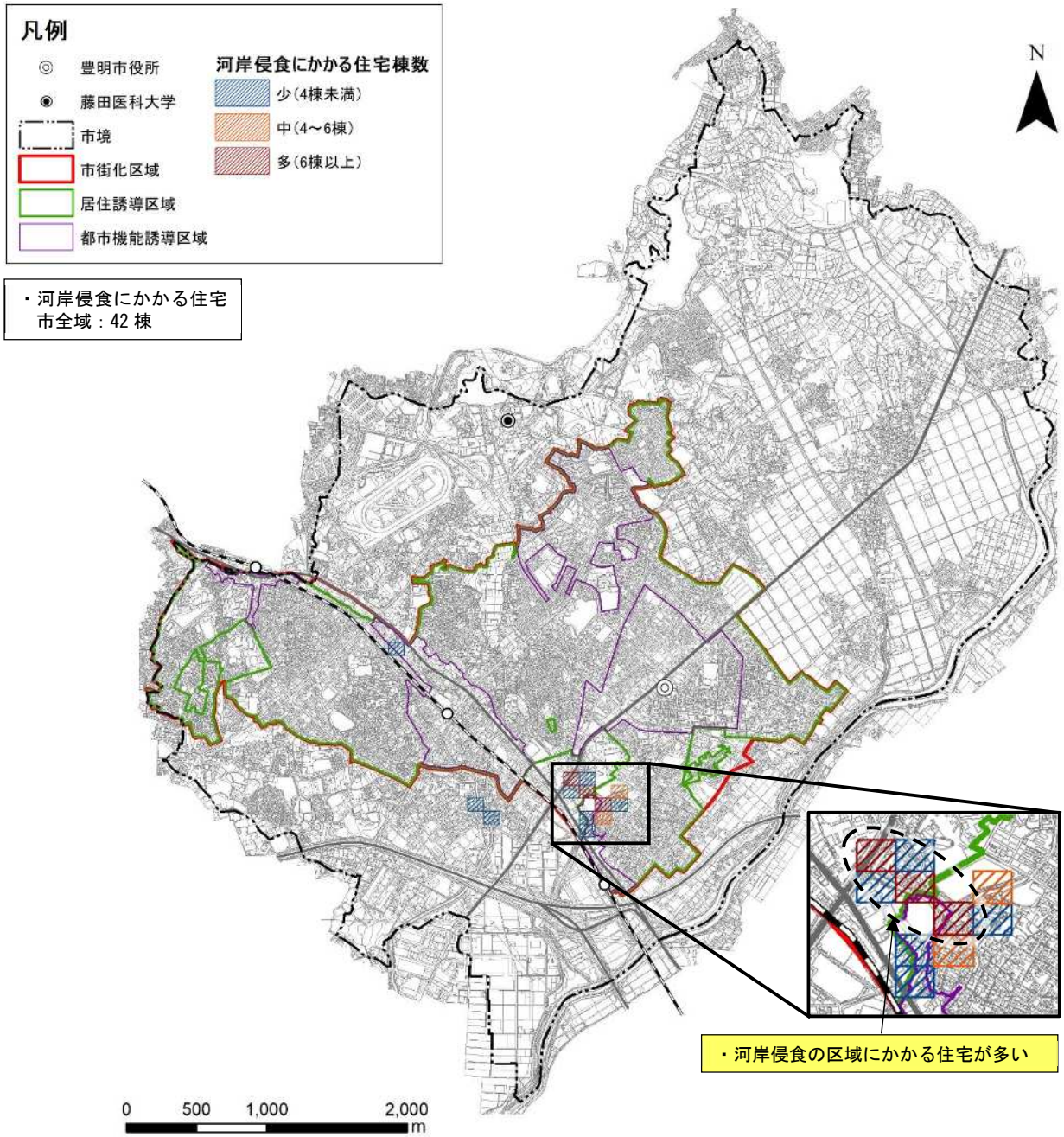
●A 人命保護

河岸侵食の区域にかかる住宅が豊明駅北側の市街化区域に密集しています。また、境川沿いや中小河川沿いの市街化調整区域では、河岸侵食の区域にかかる住宅が立地している可能性があります。

氾濫流の区域にかかる木造住宅はみられません。

図　家屋倒壊等氾濫想定区域（境川・逢妻川流域-想定最大規模）×住宅



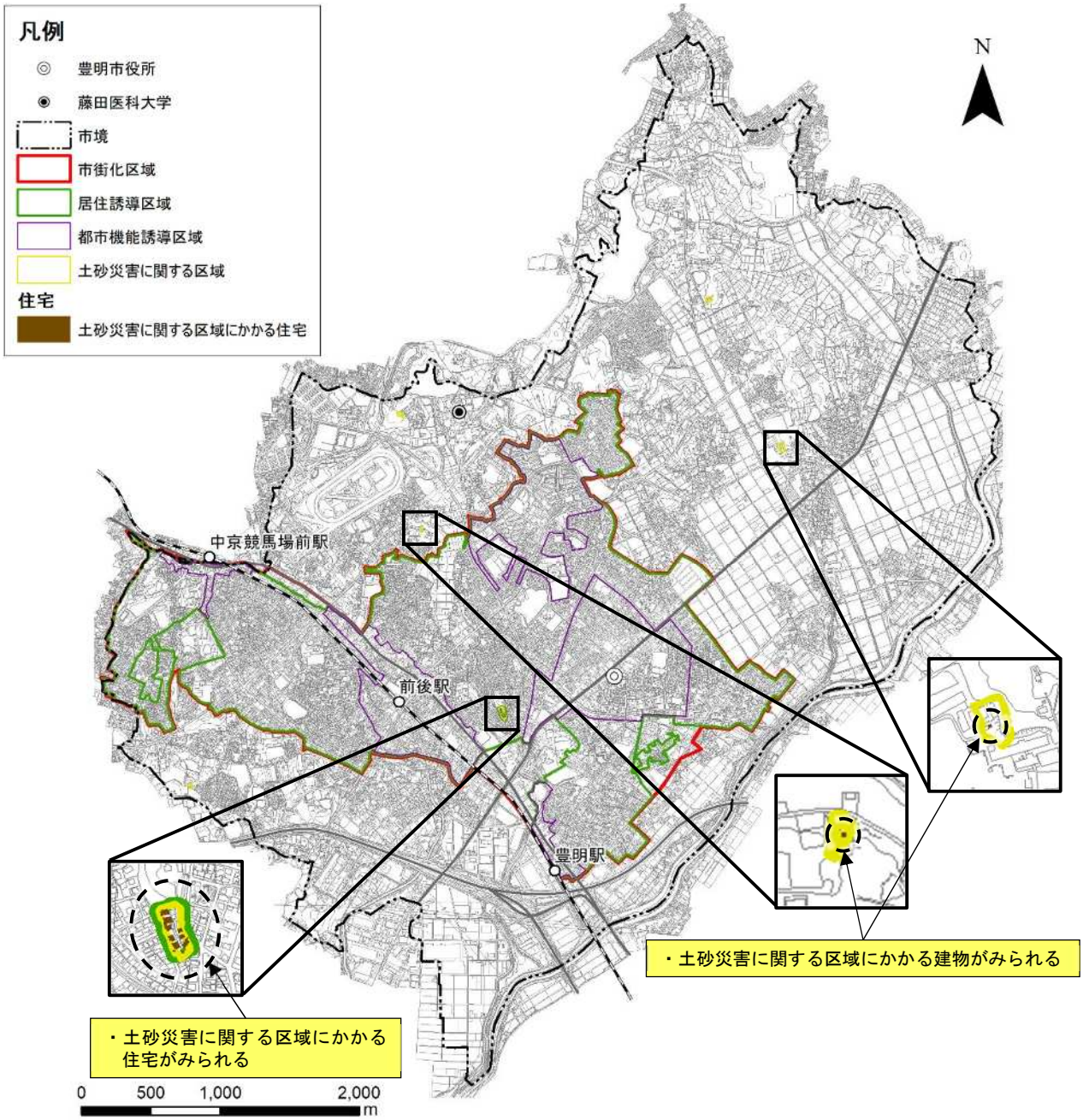

凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
河岸侵食にかかる住宅棟数
少（4棟未満）
中（4～6棟）
多（6棟以上）
・河岸侵食にかかる住宅
市全域：42 棟
N
・河岸侵食の区域にかかる住宅が多い
0
500
1,000
2,000
m

⑤土砂災害に関する区域

●A 人命保護

土砂災害に関する区域にかかる住宅が前後駅の東側にみられます。
また、土砂災害に関する区域にかかる建物が市街化調整区域に２棟あります。

図　土砂災害に関する区域（土砂災害警戒区域・特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域）×住宅

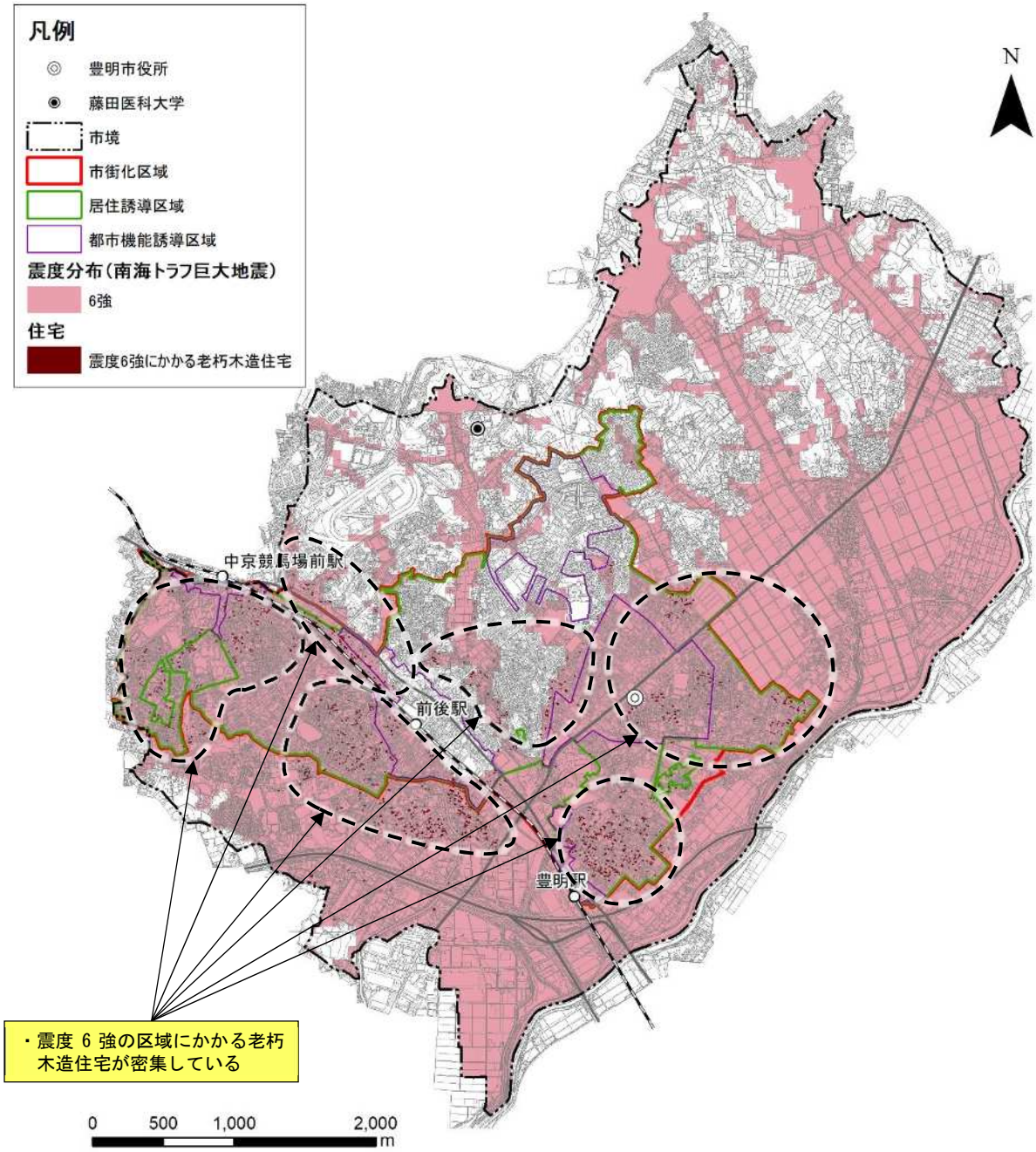


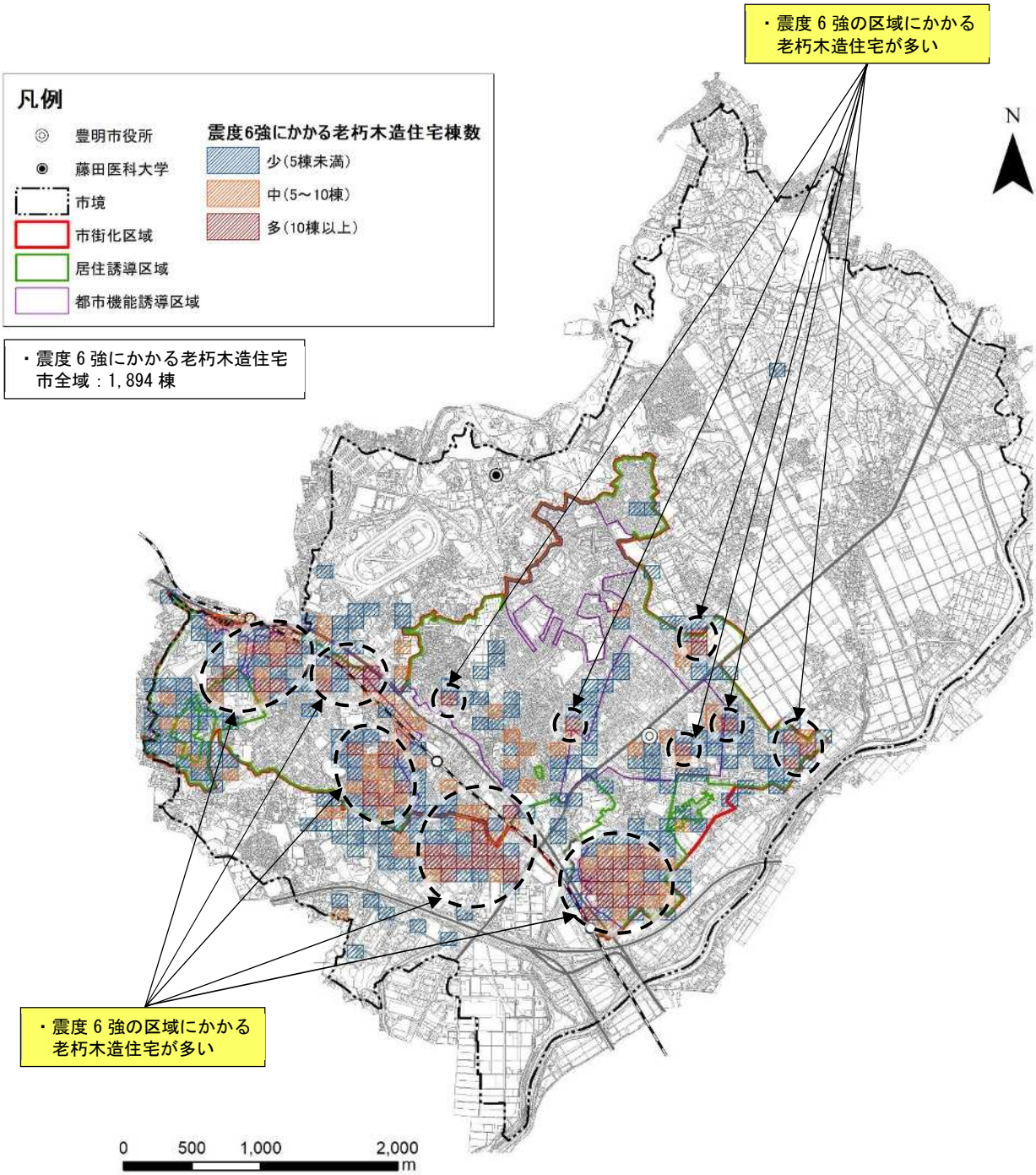
⑥震度分布（南海トラフ巨大地震）

●A 人命保護

震度６強の区域にかかる老朽木造住宅が前後駅及び中京競馬場前駅南側の既成市街地や中京競馬場前駅の東側、前後駅の東側、豊明駅の北東側、豊明市役所の東側に密集しています。また、東部や南部の市街化調整区域では、震度６強の区域にかかる住宅が多く、老朽木造住宅も立地している可能性があります。

図　震度分布（南海トラフ巨大地震）×住宅



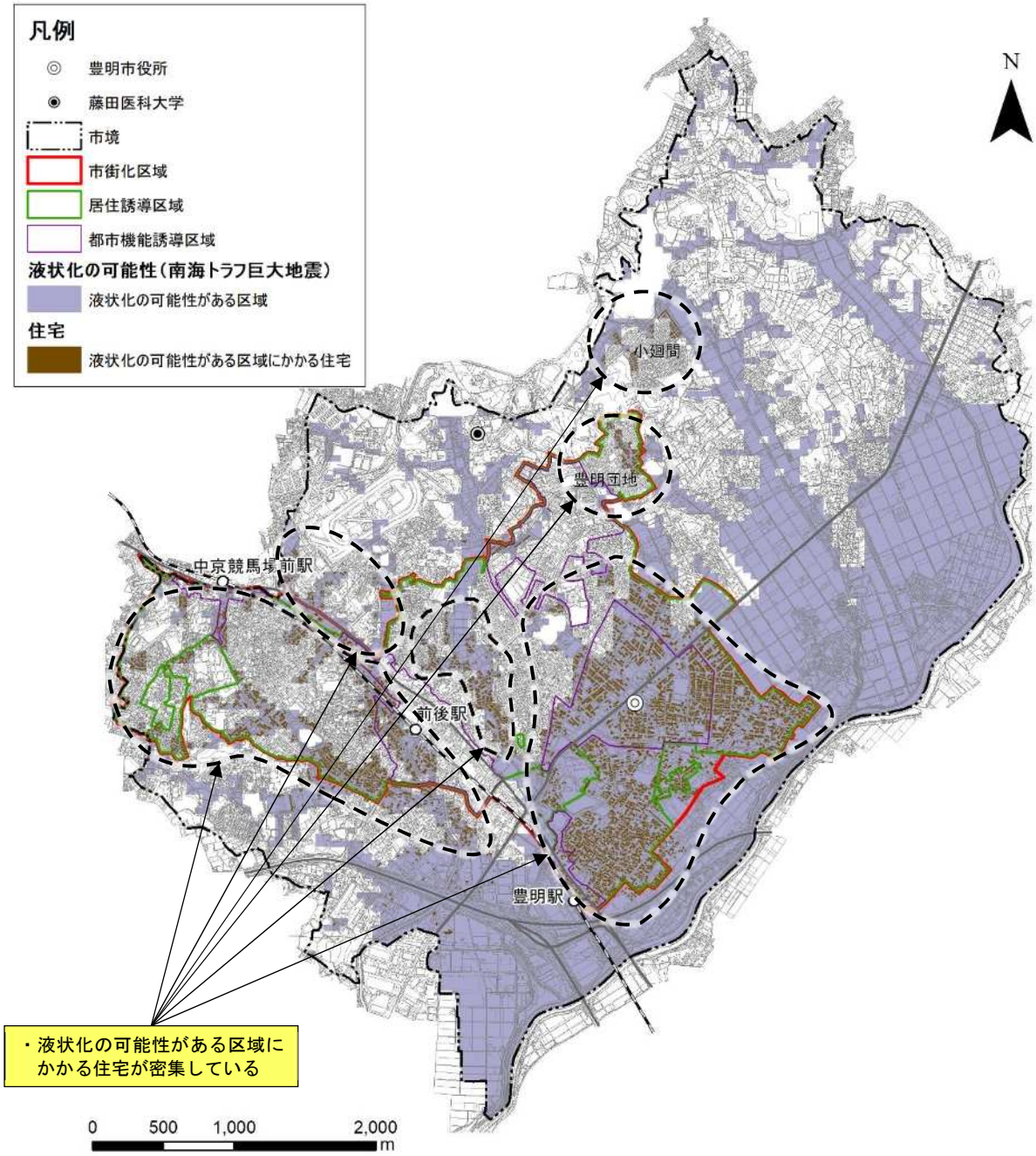

・震度 6 強の区域にかかる
老朽木造住宅が多い
凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
震度6強にかかる老朽木造住宅棟数
少(5棟未満)
中(5～10棟)
多(10棟以上)
N
・震度 6 強にかかる老朽木造住宅
市全域：1,894 棟
・震度 6 強の区域にかかる
老朽木造住宅が多い
0
500
1,000
2,000
m

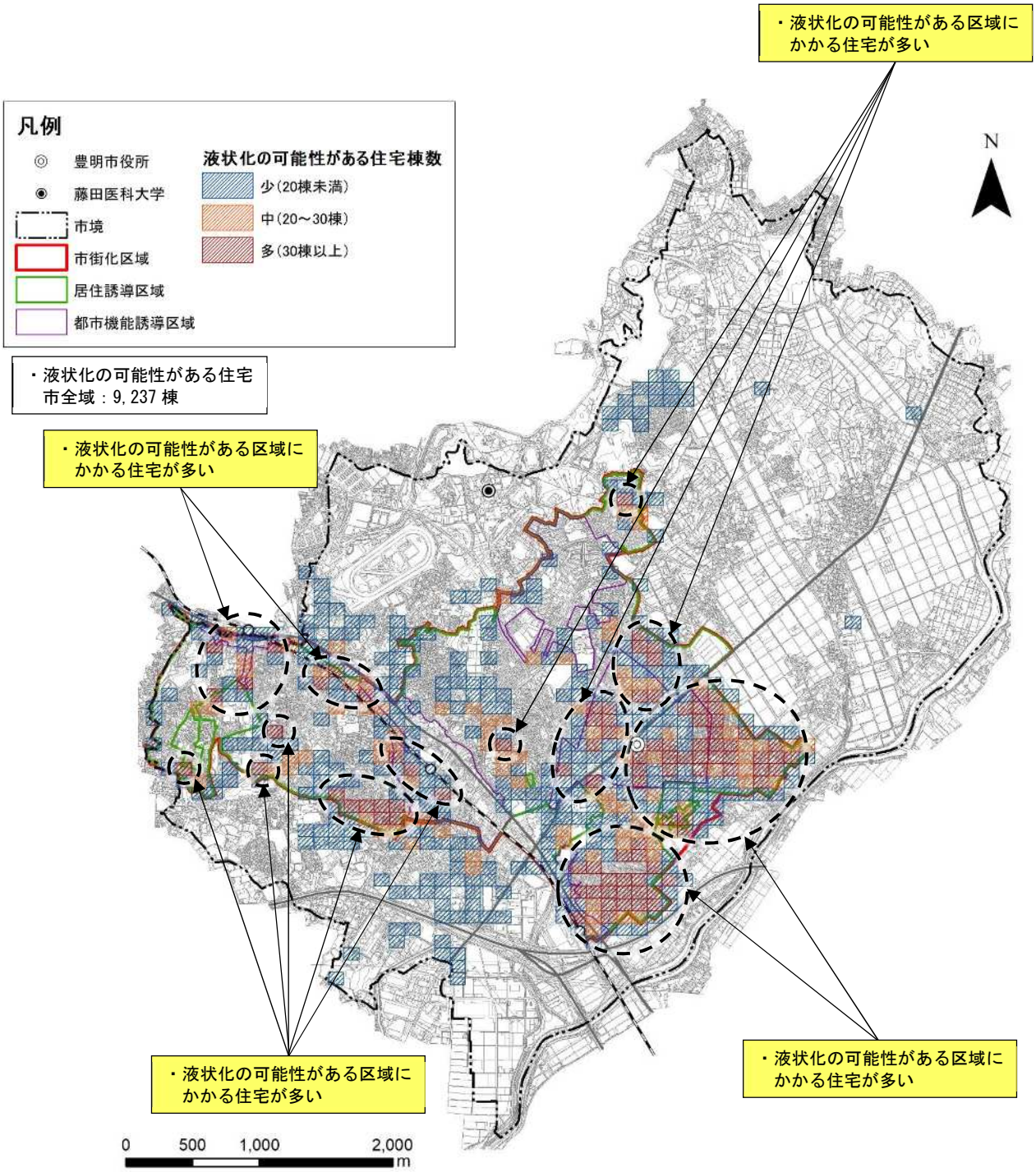
⑦液状化の可能性（南海トラフ巨大地震）

●A 人命保護

液状化の可能性がある区域にかかる住宅が前後駅及び中京競馬場前駅南側の既成市街地や中京競馬場前駅の東側、前後駅の東側、市街化区域東部、豊明団地周辺、小廻間周辺に密集しています。また、東部や南部の市街化調整区域では、液状化の可能性がある区域にかかる住宅が多く立地しています。

図　液状化の可能性（南海トラフ巨大地震）×住宅



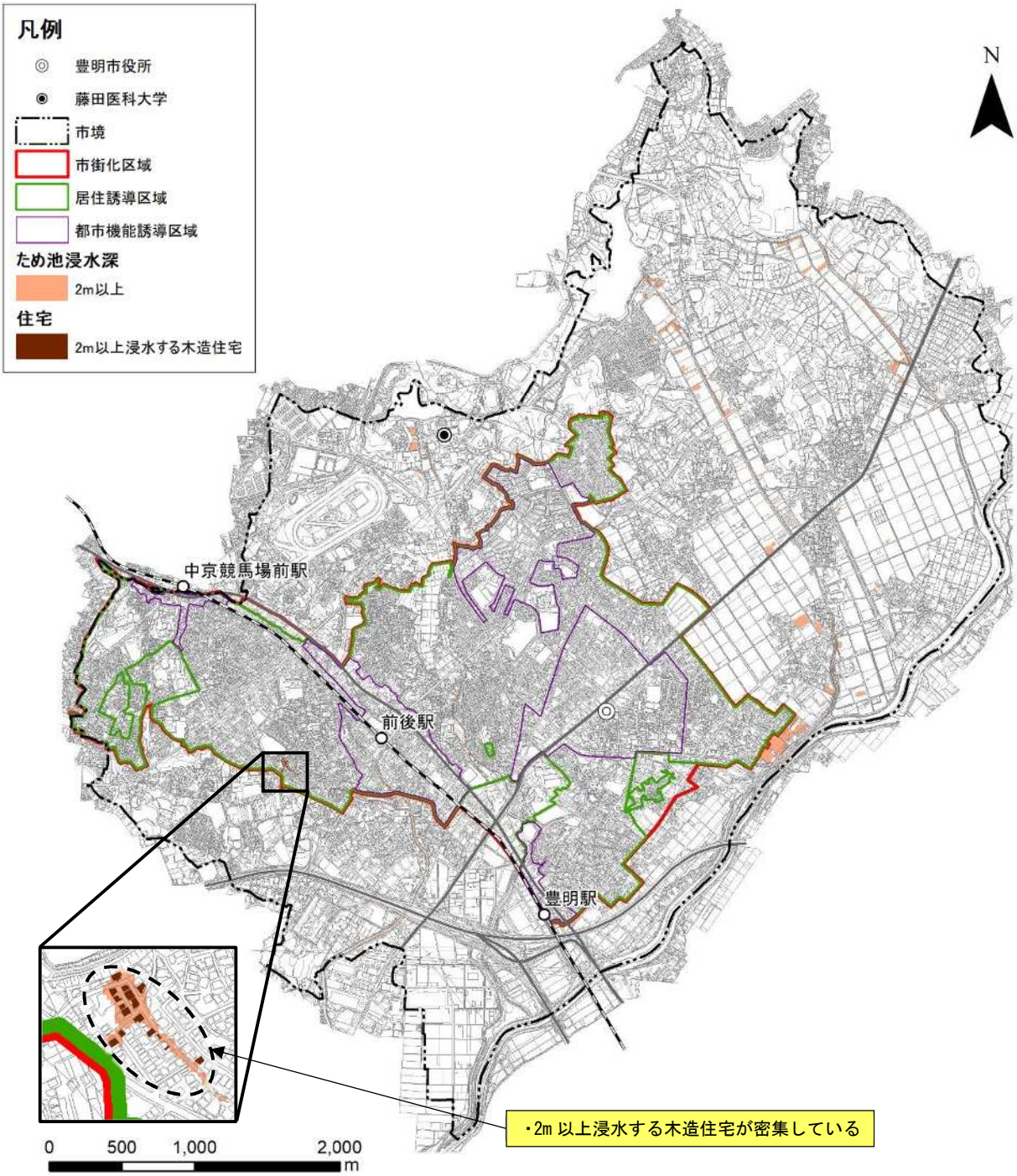

・液状化の可能性がある区域にかかる住宅が多い
凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
液状化の可能性がある住宅棟数
少(20棟未満)
中(20～30棟)
多(30棟以上)
N
・液状化の可能性がある住宅
市全域：9,237 棟
・液状化の可能性がある区域にかかる住宅が多い
・液状化の可能性がある区域にかかる住宅が多い
・液状化の可能性がある区域にかかる住宅が多い
0
500
1,000
2,000
m

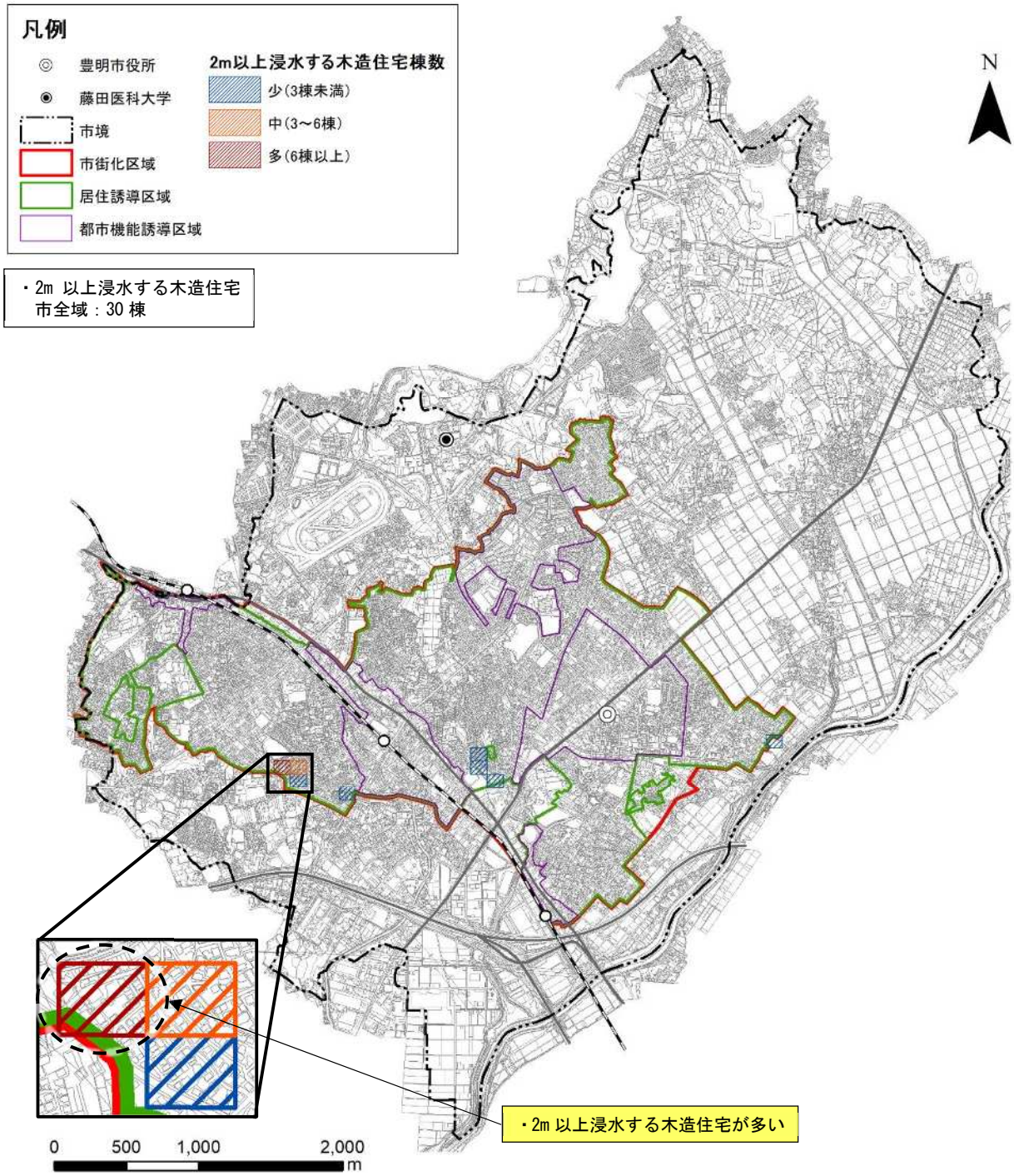
⑧ため池浸水深

●A 人命保護

２ｍ以上浸水する木造住宅が前後駅南西側の市街化区域に密集しています。また、前後駅の南側や藤田医科大学の西側、東部の市街化調整区域では、２ｍ以上浸水する木造住宅が立地している可能性があります。

図　ため池浸水深×木造住宅




凡例
豊明市役所
藤田医科大学
市境
市街化区域
居住誘導区域
都市機能誘導区域
2m以上浸水する木造住宅棟数
少(3棟未満)
中(3～6棟)
多(6棟以上)
・2m 以上浸水する木造住宅
市全域：30 棟
N
・2m 以上浸水する木造住宅が多い
0
500
1,000
2,000
m

3 防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

以上より、防災上の課題を整理します。

図　大雨・台風時

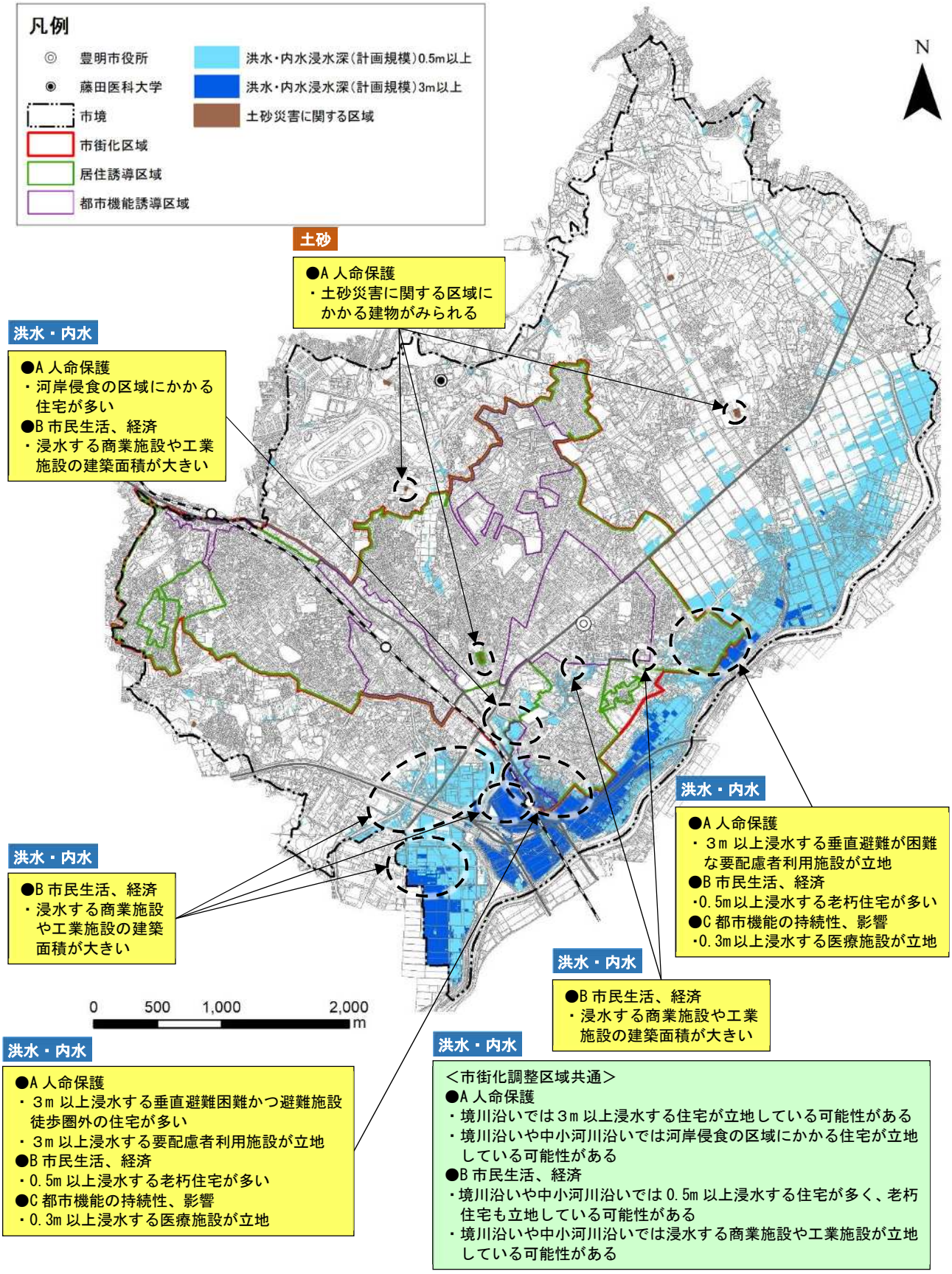
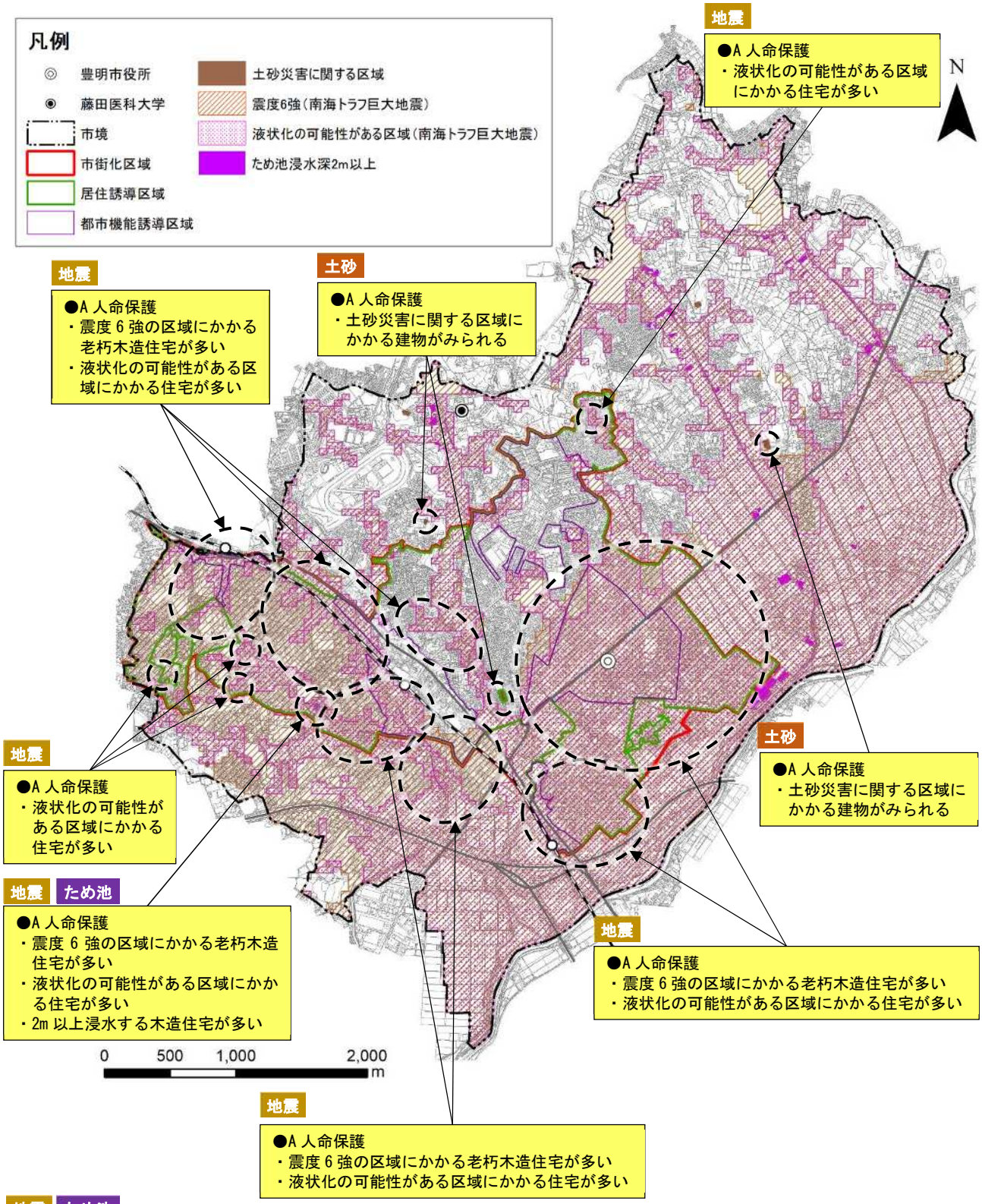


図　地震時



地震 ため池

＜市街化調整区域共通＞
●A 人命保護
・東部や南部では震度 6 強の区域にかかる住宅が多く、老朽木造住宅も立地している可能性がある
・東部や南部では液状化の可能性がある区域にかかる住宅が多い
・前後駅の南側や藤田医科大学の西側、東部の市街化調整区域では 2m 以上浸水する木造住宅が立地している可能性がある